



# 第9次営農振興計画





# CONTENTS

JA壱岐市営農振興10ヵ年計画

第9次営農振興計画 令和3年度→令和12年度



が ざそう! 100億で離島農業日本一へ ご挨拶 ~ 農業者の所得増大に向けて~ 》p1

**壱 岐の農業戦略はコレだ!!**☆ お力ある壱岐農業の実現に向けたステップアッププログラム **》p3** 

水田をもっともっと活用しよう 水田農業経営の効率化に向けて ≫ p9

米 づくり基点の循環型農業 土地利用型作物の振興へ向けた取り組み概要 » p11

地化で振興を加速 JA主導型園芸団地の育成に向けて »p13

かに高く売るか 信頼される産地育成へ向けた販売戦略 ≫p15

マート農業で所得アップ スマート農業技術の導入・普及による生産性の高い産地の育成に向けて » p17

新 しく農業を始める方を全力で支援します 新規参入人材の積極的確保に向けて » p19

集落で話し合いを始めよう <sup>集落営農の拡大・100組織に向けて » p23</sup>

**i** 売所からはじまる地場産野菜の流通戦略 産直部門の振興方針 »p55

販売高計画 ≫p59 ■ 壱岐農業のあゆみ ≫p71

特別 全画
大力 言次 これから壱岐農業を 企画
どのようにして振興していくのか

vol.1 夢のある農業の実現に向けて ····· p61 vol.2 持続可能で魅力ある農業を目指して···· p63 vol.3 20代が語り合う壱岐の農業 · · · · · · · · p65 vol.4 トップに聞く!これからの壱岐の農業 ··· p67















▶p33





▶p37





で産地拡大へ ▶p39



















▶p51

▶p53





# ご挨拶

壱岐市農業協同組合 代表理事組合長 **川崎 裕司** 



# 農業者の所得増大に向けて

当組合は昭和55年の第1次営農振興計画より約40年間、行政をはじめとした関係機関のご協力の下、農家組合員の所得向上に継続して取り組んでまいりました。現在、最大で約70億の販売高まで拡大できておりますが、これもひとえに先人の知恵と努力の賜物であると感謝いたしております。

特に、壱岐市の強みは農協共販率の高さにあり、全国でもトップクラスです。この協同の精神 こそが、これからの壱岐の地域経済を支えていく農業振興の最大の武器であると考えています。

今回の第9次営農振興計画の策定にあたりましては、壱岐振興局や壱岐市をはじめとした関係機関の皆様と「壱岐地域農業戦略推進会議」を立ち上げ、実行力のある振興策を議論し、また当組合理事を中心とした「営農振興計画推進特別委員会」において、振興具体策の検討と計画の進捗管理体制を整えております。



第9次営農振興計画 スローガンロゴマーク

こうしてここに、「若者が希望を持ち、活き活きと豊かな生活を営むことができる魅力ある農業」の実現を目指し、10年後の販売高100億円を目標とする新たな営農振興計画を策定いたしました。

10年後の目指す姿として、農業販売高100億円・新規 参入100人・集落営農100組織とする「3つの100」を掲げ、 産地強化、担い手育成、地域活性化を3つの大きな柱に、 活力ある壱岐農業の実現に向け邁進していきます。

私たちが暮らすこの壱岐の島は、第一次産業である農業・ 漁業が基幹産業であり、壱岐経済の礎です。生産者が丹精

込めて育てた農畜産物を、地域住民の皆様に安心して食して頂くことで、生産者と農業を支えることに繋がります。

実りある壱岐の島の若者が希望を持ち、活き活きと暮らすことができる魅力ある農業の実現を目指して、関係機関と一体となり、農業振興に取り組んでまいります。壱岐の大地には、 その力が十分あります。更なるご協力を賜りますようお願い申し上げご挨拶と致します。



# "進化する"営農振興計画へ

### 『第9次営農振興計画デジタル Book』で最新情報を共有

第9次営農振興計画は、10年後に目標を定めた長期的な計画であることから、 経済情勢や社会環境の変化に適宜対応しながら、振興策や振興方針の見直しも必要 になると想定しています。

そこで、第9次営農振興計画書をデジタル化し、最新情報に随時更新していく ことで、農家組合員と常に新しい振興策を共有し、また、営農振興が計画どおりに

進んでいるのか、進捗状況と課題を共有していくことで推進力を高め、計画の実効性を最大限に高めていきます。

『第9次営農振興計画デジタルBook』は、当組合のホームページに掲載し、最新 情報へ更新いたします。

また、"**QRコード"** から、いつでも、 どこでも、最新情報を確認できるように なります。

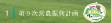


第9次営農振興計画デジタルBook 最新情報はこちらから

時代の変化に対応した

"進化する"営農振興計画を旗印に、

農家組合員と共に、これからの10年を歩んでまいります。





# めざそう!100億で

「基本理念 若者が希望を持ち、活き活きと豊

# 現

子牛

28.6億円

A 販売高:58億円

野菜・果樹・ 葉タバコ・花き

5.4億円

農産

園芸

28%

畜産

72%

施設野菜

5.9億円

成肉牛他

13.4億円

農産(米他)

5.0億円

# 取り組みの基本

# (1) 産地強化への取り組み

#### 1)競争力ある産地づくり】

- ①経営種目ごとの振興対策による生産拡大
- ②IA直営農場の設置による生産基盤の下支え

#### | 2)足腰の強い産地づくり |

- ①経営基盤の継承体制と後継人材の育成による安定した産地基盤づくり
- ②新技術を活用した経営の効率化 (スマート農業実践拡大)

#### 3)魅力ある産地づくり

- ①産地情報の積極発信とモデル経営の普及
- ②環境負荷軽減技術の実践拡大による持続可能な産地環境づくり

# (2)担い手育成への取り組み

#### 1)就農支援の拡充

- ①最長2年の就農研修とトレーニングハウスでの模擬経営
- ②就農人材の受入と定着に向けたマルチワーカー制度の運用
- (3)就農後のフォローアップ強化(各種セミナー・畜産経営研修など)

#### 2 ) 経営支援の強化

①画一指導から個別指導へ ②生産のデータ化と指導への活用

#### 3)事業継続への支援

①経営基盤の継承及び仲介、事業承継支援の拡充

# C 就業人口減少と高齢化

B 産地基盤の縮小 (衰退)

2020年産835ha (対2010比△435)

2020年度末6,012頭 (対2010比△930)

例) → 米作付けの大幅減少

例) → 飼養頭数の減少

- ➡ 後継者不在農家の増加
- → 労力不足
  - (農業における労働力人口の減少
  - ⇒規模拡大が進まない要因の一つ)
- →限られた新規就農者数

#### D 地域基盤の弱体化

- ⇒ 高齢化と離農・廃業による農家 戸数の減少と耕作不能農地の拡大
- ⇒ 地域の「受け手機能 | (集落営農等の組織化停滞)

# (3)地域活性化への取り組み ~生活所得

- |1)水田農業経営の効率化【儲かる集落営農へ】|
- | 2)地域協同の組織づくり【集落一農場のすすめ】
- 3) 持続可能な農村の仕組みづくり 【次世代へどう引き継ぐか】 `

#### 到達すべき目標を具体的に定め、「目指す姿」と「現状」とのギャップを埋める手立てを 既定にとらわれず実践し、農業振興へのイノベーションをすすめることが必要

# けたステップアッププログラム 離島農業日本

かな生活を営むことができる魅力ある農業の実現を目指します

#### 目指す姿 (2030年の目標)

#### 〈目標とする産地規模概要〉

区分	現状	目標
繁殖牛飼養頭数	6,012	7,600
米作付(ha)	835	1,200
アスパラガス(ha)	13.6	32
イチゴ/メロン/トマト(ha)	7.2	15.7
露地野菜類(ha)	37.3	82
*1品目1億円以上の	産地形成	を日標

「壱岐で農業をやってみたい!」

体制づくり

の低減

その希望を最大限にかなえられる

⇒ 就農に向けた支援と就農リスク

→ 受入上手な産地を目指して

新規参入と 育成・定着

縮小抑制と

基盤継承

規模拡大と

雇用の活用

### (1) 販売高:100億円へ

野菜・果樹類 7.8億円 葉タバコ 1.0億円 1.3億円 他 花き アスパラガス 10億円 イチゴ 3億円 農産 子生 メロン・トマト 1.6億円 園芸 販売頭数 畜産 35% 6.060頭 米他 10.4億円 65% 44.5億円 販売数量 3,600t 枝肉

販売頭数

1,880頭

成肉牛他 販売頭数 530頭 2.8億円 17.7億円

# (2)新規参入100人

独立自営・雇用就農・経営基盤の継承(第3者継承含む)など、 農業従事者の増加に向けた支援の拡充により新規参入を確保する。

Uターン支援 就農負担軽減

雇用環境整備

繁殖経営30人 保 施設野菜経営 50人 自 施設花き経営 10人 標 集落営農関係 10人

#### の確保により定住促進へつなげる~

- ①フル活用から効率的利用へ
- ⇒土地利用と経営の見直しを個別に解決
- ①ブリッジ経営による集落一農場への取組支援 (直営ハウス・共同化)
- ①人農地プランの話し合いや中間管理事業を 活用し、集落内での農地の維持管理の仕組み を作り上げましょう(基盤整備も選択肢!!)

# (3) 集落営農100組織へ

- ★資源の管理から農地の効率利用、そして担い手経営体へと 集落営農の段階的発展
- ★地域農業の未来図を描き、持続可能な農村の仕組みづくりを 通して、定住促進と人材受入を実現
- ★壱岐を集落営農の島へ(カバー率:現状30%を100%へ)
- ➡行政・JAによる集落営農のワンストップ支援 (担い手サポートセンター) をフル活用



# 基本方針と重点事項

#### 方向性

生産基盤の拡大や後継者を含む担い手の育成、収益性向上へ向けた支援などの「経営対策 | と畜産増頭対策や | A による生産基盤の拡充などの「産地対策」を組み合わせ、販売高65億円を超える安定的な産地形成を目指します

#### 目指す産地イメージ

兼業少頭飼い農家への経営支援の強化と専業多頭飼育農家の育成及び新たな農業技術の 活用により、産地構造の変化に対応した持続可能な和牛産地を目指します

生産体制の拡大により、「壱岐牛」の全国ブランド化を目指します

# 目標販売高 65億円

	現	状	目標			
区分	頭数	販売高 (億円)	頭数	販売高 (億円)		
子牛販売	4,052	28.5	6,060	44.5		
成牛販売	601	3.5	530	2.8		
枝肉販売	846	9.2	1,880	17.7		

#### 持続可能な畜産経営の拡大

○高度な経営管理と ノウハウの蓄積

○円滑な経営の承継

○平均飼養頭数の増加

○事故損失の縮減

生産基盤の拡大

#### A)経営対策

- 1)生産基盤の拡大
- ◆牛舎取得コストの縮減や子牛生産1頭当たりの固定経費の圧縮及び事故率改善の取り組みなど、収益性 の向上を図ると共に、後継者が継続的に飼養できる環境づくりにより生産基盤の拡大を目指す
- 2)後継者の確保及び育成支援
- ◆若い世代に畜産経営の魅力を伝え、就農支援制度などを活用し、産地を支える後継者の確保と人材 育成を目指す(10年後目標:新規繁殖経営30人)
- 3)経営の継続支援
- ◆廃業等による飼養頭数の減少に対応するため、経営の継続に向けた地域内での支援体制の整備を図る とともに経営基盤の継承体制の構築を目指す

#### B) 産地対策

- 1)経営環境の改善と支援の充実
- ◆個別の経営対策の効果を高めるための指導体系の改善と必要な経営環境の整備を進める ◆受精卵移植(ET)の利用拡大による優良系統産子の安定供給を図る
- 2) 増頭支援施策の活用
- ◆新規就農者や集落営農組織など担い手の確保 ◆牛舎の増改築や素牛導入事業への取り組み
- 3)JAによる生産基盤の下支え
  - ◆JAの農業経営によるモデル農場の実証と飼養頭数の拡大により、安定的な取引頭数の確保に努め、 産地対策の実効性を高める

# ■飼養目標頭数

(単位:頭)

		令和2年度	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度	令和12年度
繁列	直 牛	6,012	6,350	6,650	6,950	7,250	7,600
肥育	第 牛	1,420	1,500	1,500	1,830	2,170	2,600
全	体	7,432	7,850	8,150	8,780	9,420	10,200

# ■規模別飼養農家目標戸数 [令和12年度]

(単位:戸、頭)

項目	10頭未満	10~19頭	20 ~ 29頭	30 ~ 39頭	40 ~ 49頭	50頭以上	計
農家戸数	250	100	70	40	20	20	500
繁殖頭数	1,000	1,300	1,600	1,300	900	1,500	7,600

# ■販売目標頭数

(単位:頭)

	令和2年度 令和4年度		令和6年度	令和8年度	令和10年度	令和12年度
子 牛	牛 4,052 5,060		5,300	5,300 5,540		6,060
成肉牛	277	250	250	250	250	250
妊 娠 牛	244	200	200	200	200	200
初任牛	80	80	80	80	80	80
枝肉(去勢)	488	500	500	600	700	850
枝肉(未経産)	358	400	400	500	600	750
枝肉(その他)	176	76 280 2		280	280	280
頭数計	5,675	6,770	7,010	7,450	7,890	8,470

# ■所得試算表

	区			子	牛	肥育牛(去勢)	肥育牛(雌)	摘 要
	主	主 販売代金		730	,000円	1,100,000円	1,000,000円	
収	収							
	入	小	計	730	,000円	1,100,000円	1,000,000円	
	そ	副産	物			23,000円	23,000円	
	の	補填金	等			3,000円	3,000円	
	他							
_	収							
入	入	小	計		0円	26,000円	26,000円	
	収	入合	計	730	,000円	1,126,000円	1,026,000円	
	素	畜	費			730,000円	650,000円	
	飼	料	費	180	,000円	209,000円	209,000円	濃厚飼料 粗飼料
支	資	材	費	32,	,000円	15,000円	15,000円	敷料・種付料 諸材料
	衛	生	費	26	,000円	22,000円	22,000円	共済掛金 衛生資材等
	水	道光熱	費	7,	,000円	8,000円	8,000円	水道・電気 燃料等
出	減	価 償 却	費	120	,000円	27,000円	27,000円	建物・機械 親牛
	雑		費	107	,000円	52,000円	52,000円	販売経費 市場手数料他
	支	出合	計	472	,000円	1,063,000円	983,000円	
所			得	258	,000円	63,000円	43,000円	
所		得	率		35.3%	5.6%	4.2%	



# 振興対策と取り組み計画

#### A)経営対策

- 1)生産基盤の拡大
- ●増頭に向けた牛舎の改修と低コスト化への取り組み
- □低コスト牛舎の導入
- □牛舎の機能向上支援(拡張・継ぎ足しによる段階的な規模拡大)
- ② 飼養管理を基準にした生産指導の体系化による優良粗飼料の安定確保
- ③事故防止への取り組み強化(事故の削減目標:5%以下)
- 個人工ほ乳技術や2サイト牛舎の普及による生産性向上
- 2)後継者の確保及び育成支援
- ●飼養管理・経営能力向上対策
- □「畜産経営セミナー」など、新規就農者や後継者向けに定期的な研修会を開催
- ②空き牛舎の有効利用による新規参入等の負担軽減(参入促進)
- □未利用牛舎情報の集約と継承希望意向の調査(台帳の整備)
- □継承に向けてのガイドラインの検討と運用
- ❸新規参入希望者の「研修兼雇用」による受入の拡大と独立支援
- □マルチワーカー制度や雇用助成事業の活用による積極的な受入体制の整備と運用支援
- 3)経営の継続支援
- ●地域内協働による農作業支援体制(互助ヘルパー等)の構築支援
- □産地の未来を見える化し、集落単位での飼養頭数維持を支援
- □飼養管理における集落内での互助組織の体系化と支援(助成措置の検討)
- ②粗飼料供給体制の構築支援(集落内での分業化など)
- □集落営農組織との連携による粗飼料供給体制の構築を支援(地域コントラクター育成)
- ❸広域コントラクター組織の育成による粗飼料の島内流通体系づくり
- □島内全体での粗飼料の需給マッチングへの取り組み

#### B)産地対策

- 1)経営環境の改善と支援の充実
- ●飼養管理の適正化に向けたデータの活用
- □モデル経営体の蓄積データをもとに畜産指導及び経営指導へ活用
- ②最適経営技術モデルの実践と普及
- □経営指標の数値化と個別経営指導の強化
- ❸受精卵移植(ET)利用拡大と必要な体制整備
- □採卵・供給の効率化に向けた全農ETセンターとの連携
- 2) 増頭支援施策の活用
- ❶増頭支援施策の活用支援
- □畜産クラスター事業・県導入・チャレンジ7000事業・リース牛舎など
- IAによる初妊育成事業の拡充
- 3) JAによる生産基盤の下支え
- ●JA畜産施設の拡充と畜産団地の建設
- □JA直営肥育生産の拡充 (経産肥育含む) 及び繁殖センターの拡充
- □畜産団地構想の具体化(直営牛舎・アパート牛舎など)
- ②新たな経営モデルの実証と普及
- □新技術を活用した見える畜産経営の実践(スマート農業技術の活用)
- \*分娩予測→牛温恵 個体管理→アプリ活用 遠隔監視→養牛カメラなど
- □放牧による大規模繁殖経営モデルの実証
- \*産地交付金等を活用した集約放牧の普及

# ■JAによる農業経営拡充の取り組み計画

	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12			
		R4 ∼	建設候补	甫地の選	定・飼養	<b>養管理者</b>	の育成						
			R5 ∼	JA直営	繁殖牛台	の建設	(50頭	×4棟)					
JA直営 畜産団地の建設			R5 ∼	JA直営	肥育牛會	の建設	(100	 頂×4棟)					
		R4 〜建設候補地の選定・アパート利用者の募集											
			R5 ~	 JAアパ		の建設	(各町(	 こ順次建	設)				
	R5 ~ JAアパート牛舎の建設 (各町に順次建設) R4 ~簡易牛舎 (低コスト牛舎) の実証展示 R5 ~簡易牛舎の普及												
	R3 ~優良繁殖素牛の供給に向けた初妊牛の育成強化 (年間80頭~)												
JA畜産施設の 拡充 (生産拡大)	R3 ~	一産取	り産子に	よる子	牛販売σ	拡大 (红	丰間60	頭~)					
(=,=,=,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,,		R5~経産肥育「壱岐legend beef(仮称)」用 簡易牛舎建設(100頭×1棟)											
					R7∼	肥育セ	ンター5	曾設 (35	 0頭×2	棟)			
	R3~F1 によるレシピエント牛 (受卵牛) の導入												
				-レシピ:	-				00頭×	1棟)			
全農ETセンター との連携		R 4 ~	~優良系	 統雌牛 ŀ	ドナー牛	(供卵牛	-) の導	λ					
				 -ドナー:					 )頭×1村	東)			
			R 5 ~		· 多植によ	る優良	産子の生	主産拡大	:				
	R 3 ~	~先進地	視察										
ICT活用型放牧		R 4 ~		選定			· <del>-</del> -						
モデルの実証			R 5 ~	放牧モ	デル実証	(30頭	規模×	2カ所)					
				R6~	集約放	女の普及	t						



# Ⅲ 部門別振興方針 2.農産園芸部門 ~基本方針と重点事項~



# 水田農業経営の効率化に向けて

# 現状/

- ●積極的な農地の高度利用施策(水田フル活用)をすすめ、10a当りの 生産額(収入額)の最大化を目指してきたが、それが必ずしも経営 所得の向上に結実していない
- ○限られた経営資源の中で最大限の所得の確保を目指す取組が必要

### 1)水田利用の効率化

- ①土地利用型作物振興策の実践による品目ごとの所得向上
  - ➡水稲・麦・大豆の振興策 (P11~12参照)
- ②作型と品目の組み合わせの最適化による経営全体の所得向上
  - →個別の経営実績に応じた営農計画の策定指導



# 2)経営資源の効率的活用

農地の所有と利用の分離 / 農機の所有と

- ①農地利用の効率化
  - →中間管理事業を活用した利用農地の再配分と営農計画に沿った農地利用
- ②機械利用の効率化による機械設備費(固定費)の低減
  - →必要最低限の取得と必要に応じた利用

#### 3) 水田経営の効率性向上に向けた条件整備

個人管理から集落

- ①営農及び圃場管理の効率化に向けた基盤整備(再整備)の促進と積極的な支援
  - ➡中区画化 (20~100a区画)・排水向上・フォアス・畑地化
- ②地図情報を活用した作業管理(営農計画・転作確認・防除情報・生育管理と生産 履歴のデータ化)

#### 方向性

これまでの水田利用率200%を目指したフル活用施策から転換し、水田を基盤とした農業経営 の効率化を目指すことで、安定的に継続できる水田農業のカタチづくりを進めます

	1作	フル活用	フノ	ル活用失敗例			
収入	10 + 0 = 10	10 + 5 = 15	10	<del>-3+5=12</del>			
費用	8 + 0 = 8	8 + 3 = 11		8 + 3 = 11			
所 得	2	4	/	1			

裏作により収入は5増加するが、輪作の影響により収量が 低下するなどして基幹作物が3減収した場合、所得は減少します

#### 解決策

- ①基幹作物の収量に影響が少ない品目へ裏作 を変更する
- ②裏作での収益を確保するためには、基幹作物 への影響が少ない品目と組み合わせる

#### 具体的な提案例

大麦:6月下旬~10月までの圃場占有で、収益が 見込める品目との組み合わせ

普通期水稲:5月下旬の田植えが可能な品目との

組み合わせ



#### 利用の分離

#### 分散錯庸の解消

機械及び労力に応じた農地利用(団地化)

過剰投資抑制に向けた組織間の機械共同利用 の仕組みづくり(相互受委託・農機レンタル)



#### 全体での管理へ

地域農業の生産基盤を持続可能なカタチへ ⇔従事者減少・コスト削減

個の管理から管理の共有化へ







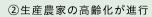


# 土地利用型作物[水稲・麦・大豆]の 振興へ向けて

# 現状(又は課題)

# [1]水稲振興

①生産面積及び産地規模の縮小傾向 R 2 水稲作付 835ha R 2 生産目安 1,026ha △191ha



③収量及び品質の低下が顕著



#### 目標

主食用 1,000ha + 非主食用 200ha

# [2] 麦・大豆 振興

#### 麦

- ①需要に対し生産が過剰(大麦) (需給バランスのミスマッチ)
- ②麦後の水稲の収量が低下

## 大豆

- ③ 生産面積の減少が顕著
- →主要因:低収量による採算性 の悪化



#### 目標

麦 200ha 大豆 70ha

# [3] 共通する

経営課題

①生産所得が年々低下している →単価下落・生産費の上昇

②生産の維持・拡大に向けて人手が不足 →省力化の必要性

\*裏付けされた手抜きの技術→定着



#### 目標

生産費 △10% 労働時間 △10%

#### 方向性

主食用米に加え、多収性品種による用途限定米穀の導入を図り、米を主体とした経営が成り立つ 仕組みを仕掛けるとともに、土地利用型作物をベースとする地域農業の中核的経営体の育成と支援 を図ることで、販売高10億円規模の安定的な産地を維持します

#### 課題解決に向けた方策

#### ①米主体の経営モデルの実践

- ②多収性品種による用途限定米穀の導入 →加工用等の需要の新規開拓と生産支援
- ③生産適正の高い品種への転換
- ④生産継続への支援→作業受託組織等の育成と支援
- ⑤全量出荷促進と販売強化
- →付加価値販売/白米販売の強化/保有用白米 事業の拡充

# 必要な変化

画一的な指導と作付推進



経営効率の高い 輪作体系の個別提案

#### 麦

- ①生産調整と麦種の転換・分散 →大麦:選択減産・小麦:拡大
- ②麦類の共同計算による麦種間の所得の平準化 (IA独自共同計算の検討)

#### 大豆

- ③生産対策の検証と300A技術の活用
- →摘心栽培(梅雨前播種での初期生育対策)
- →畝間潅水 (子実肥大期)
- →難防除雑草対策(体系除草の実証)

地図情報とクラウドを 活用した生産管理情報 のデータ共有により指 導と連携の強化

- ①育苗コストの削減と省力化
  - 1) 密苗栽培の実証
  - 2) 播種同時施薬の普及・拡大
  - 3) 直播技術の検討と実証
- ②生産資材費の見直し
  - → 低コスト肥料への転換
- ③管理作業の省力化に向けた新技術の 実証と活用 (スマート農業の実証と検討)
  - 1) ラジコン草刈機等省力化機械の実証
  - 2) センシング技術の活用
  - 3) ドローン技術の活用





# JA主導型園芸団地の育成に向けて

#### [1]

JA直営農場 [ブリッジ経営]

①IAで新規ハウスを取得

\*地元組織への移譲を前提に施設を導入

\*50a規模以上

\*品目:アスパラガス又はいちごなど

②IA直営農場として一定期間経営

\* |A直営農場としての経営期間も地元雇用等を活用(賃金の地元還元・人材育成)

③経営が軌道に乗った段階で地元組織へ「施設と経営」を移譲

#### [2]

アパートハウス 「闌芸団地」 ①IA(又は事業体)で園芸団地として新規ハウスを取得

②品目を指定して入植者の取りまとめを行い、 入植者は通いで農業経営を行う

③入植者は施設取得費を負担しない代わりに利用期間に応じた 賃借料を負担

IA等は施設取得費及び維持管理費について、入植者からの 賃借料を充当

#### [3]

トレーニング ハウス

①IAで整備・取得した研修ハウスで、新規就農者等を対象に 模擬経営や経営実践を行う取り組み

\*品目:アスパラガスなど

\*施設取得までの経営基盤の確保

\*U・Iターンなど、施設及び農地を確保するまでに期間を 要する場合への対応

\*新規就農者にとって一番有利な段階での経営開始となる よう運用

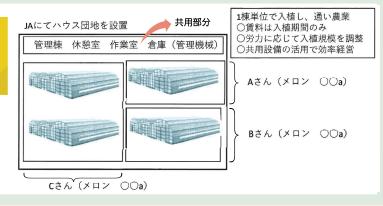
#### 概要

設備投資の負担軽減と経営を軌道に乗せるまでのランニングコストやノウハウをIAが補完することで、 施設園芸(アスパラなど)への新規取り組みを加速します

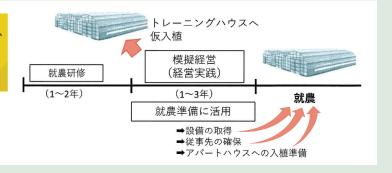
#### ブリッジ ハウスの 取組モデル

JA直営ハウス建設 (50a~) 地元集落営農法人等へ 経営移譲 <メリット> 経営が軌道に乗るまでは 低リスクでの経営拡大 JAで経営(5年程度) ○設備投資費の圧縮(償却残) \*地元からの雇用の活用(5名~) 〇収支の安定(初年度から黒字) ➡賃金の還元 ○人材確保(JA直営期間に地元雇用を活 →人材育成 用した人材育成)

#### アパート ハウス事業の 取組モデル



# トレーニング ハウスの 活用例





# 信頼される産地育成へ向けた販売戦略

#### 方向性。

牛産者と実需者(消費者)との信頼関係を築き、消費者に選ばれる産地を目指し、牛産者の 所得向上を目指します

#### 販売 戦略

#### ①パートナーとなる市場の選定

- 1) 市場間競争が激しい中、品目に応じた各市場の 販売力を見極め、固いパートナーシップを築く
- ②的確な出荷予測を基に、市場、実需者との 定期的な販売協議と計画的な出荷を実施する
  - 1) 作付状況のデータ管理による出荷予測を 実施する
- ③実需ニーズの変化に応じた加工業務用等の 取引量を拡大する
- 1) 加工業務用向け専用品種の作付と契約取引 を前提に実施する
- ④ターゲット層への販売促進活動
  - 1) 単に高級品、富裕層がメインでなく、差別化 できる品目の特性と使用用途などを検討し、 ターゲット層を絞る



#### 生産面と販売面の 両面で実行する



#### 販売戦略 を支える 生産対策

#### ①品質の高位平準化

- 1) 土づくりから肥培管理、防除、出荷選別まで 統一した管理方法を部会で徹底する
- 2) 作型分散と高品質栽培技術を確立する
- 3) 集出荷施設の整備と共同選果の拡充により 品質の高位平準化を進める

#### ②ロットと安定供給

- 1) 新規部会員の増員と栽培面積の拡大による 取扱量増加と安定供給を実現する
- 2) スマート農業技術を活用した、生育、出荷 予測技術を確立する
- ③既存品目にとらわれず、需要に応じた新品目 導入を積極的に実施する
  - 1)綿密な需要調査を実施し、実需者との協議 の上、生産計画を立てる。

#### 販売の基本

#### 販売額 = 販売単価×販売数量 農家所得=販売額-販売経費-生産経費

- 1. 全ての規格帯を売り切れる 販路を持つこと
- 2. 収量の増減、市況の変化など のリスクに対応できる販路の 幅を持つこと
- 3. 販売経費や販売に伴う手間を 最小限に抑えること



# 販売主導の産地育成(買取販売)

市場動向に左右されない、IA独自の買取販売制度の確立により、生産者が安心して栽培へ 取り組み、安定した所得の確保による専作農家の育成を目指します

# 実証例 ブロッコリー



# 的 لح 選 定 理

- 1 露地経営品目の柱として、作型拡大と作期分散による長期継続出荷で専作農家育成 を進める
- 2 水田農業経営の効率化に向け、担い手・集落営農組織への取り組みを推進できる
- 3 全量共同選果による品質の高位平準化が図られている
- 4 発泡氷詰めの出荷形態により、出荷調整が可能であり、契約販売の比率を高め販 売差損のリスクを軽減できる(契約割合現行2割→目標5割)
- 5 加工業務用への取り組み(実需の意向では国産の原材料を増やしたい) 「定時・定量・定質・定価格での安定供給・安定生産 | → ブロッコリー収穫機の導入
- 6 育苗・定植作業等の受託事業の拡充により、生産面積の増加に対応できる

# の 内

- 対象者
- ●部会組織加入者
  - IA及び部会の決定事項 を遵守する者
- 販売見込 jμ
- ●直近2か年の販売実績及び 市場契約単価を基に算定する

- ●月ごとの定額単価での 買取販売方式
- .3 買取方法

2

実施内容

- ●受入(集荷場持込)日を 基準として、検査後の 出来高数量で買い取る
- 買取単価
- 買取単価は、販売見込単価 から出荷経費を控除した単価 とする
- ●買取単価を生産者振込単価 とし、それよりの出荷経費 等の控除は行わない
- ●買取単価は玉当たり単価 (税込)とする







# 5 スマート農業技術の導入・普及による 生産性の高い産地の育成に向けて

## 現状と課題

# 水 稲 普

- ☑中山間地域など条件不利地域が 多い
- ☑農家、担い手の高齢化が進んで おり、作業の省力化、労力軽 減など経営の効率化は必要と なっている
- ●オペレーターの高齢化
- ●急傾斜地の危険な除草作業 など

# 施 設 鼠 芸

通

- ☑生産者の高齢化などが進み、 産地が縮小する傾向があり、 今後は省力化と生産性向上に より取扱量拡大が必要となる。
- ☑新規参入者の安定生産技術の 早期習得

# 露 地 野 菜

- ☑生産者間での収量差と品質の バラツキ
- 図実需(市場)から、出荷予測に よる出荷時期、出荷量の把握、 定品質化など、安定供給が求 められている

# 畜 産

☑高齢化等で農家戸数が減少する 中、規模拡大が進展しており、 省力化及び生産性向上に資する 技術導入が必要。

特に、分娩間隔の短縮と事故率 低減は喫緊の課題であり、ICT の活用による効率的な個体管理 の充実を進める必要がある。

# 導入技術と

#### ■自動操舵システム

(耕うん・代かき・田植)

- →作業効率化により単位時間当たり の作業面積が増加(10~25%)
- →熟練者と同等以上の精度、速度 での作業が可能

#### ■自動水管理システム

→見回作業が大幅に省力化 (水管理に要する時間が80%減少)

#### ■環境制御技術

- ①自動換気装置
- →温度管理、雨天時の開閉作業を 自動化することにより省力化が 可能
- ②自動潅水·防除装置
  - →大半を占める作業管理を大幅に 削減

#### ■圃場管理システム

- →圃場ごとの管理データ(品種、 定植日、気象等)により、 出荷時期と出荷量が予測可能
- →出荷量予測により、選果場の 効率的な操業が可能

#### ■クラウド牛群管理システム

- →確実な受胎による分娩間隔の短縮
- →疾病兆候の早期把握による事故 防止

#### ■集約放牧

→スマートフォン等を用いて、放牧牛 の位置情報や発情情報を収集・管理

#### 方向性 \_

先端技術を活用し、生産現場の課題解決にあたることで、省力化と高品質生産の両立による 収益性向上を図ります

#### 効果

#### ■ドローン防除

→中山間地域での防除作業の大幅な削減が可能

#### ■ラジコン草刈機

- →急傾斜地や人が入りにくい危険な場所で、 遠隔操作により、安全に除草作業が可能 (10aの水田畦畔、法面の除草
  - …従来4時間を導入後1時間)

#### 日指す姿

条件不利地域でも 持続的に水稲(普通作) の生産が可能な 営農体系の確立

#### ③炭酸ガス発生装置

- →冬期の光合成促進により、収量・品質の 向上
- ④ 統合環境制御システム(環境モニタリング機能)
- →生育調査と草勢等把握によるデータ化に より、効率的な肥培管理と安定技術の習得

#### ■収穫ロボット

→アスパラガス収穫作業の労力軽減

#### ■リモートセンシング

- →草勢等の生育診断により適切な肥培管理 を行い、収量増大と高品質化生育状況の 数値化と情報の共有により栽培技術の高 位平準化が図られる
- 自動操舵システム
- →新規参入者、雇用労働者等の非熟練者の 作業精度の向上と作業者の操作負担軽減

#### ■給餌口ボット

- →給餌作業を自動化し個体別自動給餌を行う (個体管理型哺乳ロボットなど)
- ■その他の導入技術
  - →追従式ワゴン・分娩監視カメラ等

環境制御技術等の導入 による収益性の向上と 生産データに基づく 技術改善とノウハウの 継承により高品質・ 安定生産を確立

スマート農機による 省力化、出荷予測システム 等の活用により、「定時・ 定量・定質」の出荷が できる産地の確立

省力化・新技術導入 により高齢になっても 畜産農家として経営が できる環境体制を確立



# 新規参入人材の積極的確保に向けて

#### 方向性 \_

「新規就農(参入) = 研修+施設投資(補助事業)」の既成パターンにとらわれることなく、持続可能な 地域農業を構成する人材確保に向けてあらゆるシーンでの農業従事者の増加を目指します

#### 具体的には

①独立自営 ②雇用就農 ③経営基盤の継承就農(第3者継承含む) ④兼業就農等を目指すべき新規参入に 位置づけ、産地拡大及び地域農業基盤の維持に向けて、不足するマンパワーを補うための手立てを讃じます

背景

- \*各部会生産農家においても世代承継が進まず先細り懸念(後継者不在・他業種へ従事)
- \*自然減を上回る生産基盤の拡大に向けて、新規参入者の確保が必要
- \*全国的には都市部からの農村回帰が進んでいるが、産地間での就農人材の争奪戦
- →産地振興に沿った新規参入の目標を数値化し、積極的な確保(呼び込み強化)が必要
- →人・産地プランをベースに経営基盤の継承対策を進める上で、人と産地基盤の未来図づくり
- →規模拡大に必要な雇用の確保も参入人材受入の有効策とし、産地全体での取組が必要

#### 壱岐で農業をやってみたい!

その希望を最大限にかなえられる体制づくり

④受入上手な産地を目指して

③壱岐での就農の 選択有利性の最大化

②就農リスクの低減

①就農に向けた支援の充実

〈内訳〉 ● 繁 殖 経 営 30人

- 施設野菜経営 50人
- 施設花き経営 10人
- 集落営農関係 10人

\*50歳以下で、農外収入を主体としていたものからの 専業への転換をカウント (兼業での承継は含まず/名 義のみの承継から実体的な承継は含む/雇用就農含む)

#### 就農までの道のり

情報収集(就農希望者で実施)

→ 相談窓口:担い手サポートセンター(移住支援・就農計画など)

#### A) 自立経営を目指す場合

- ①JA技術研修 (1年) → 設備投資→ 就農 (経営開始)
- ②IA技術研修(1年) → トレーニングハウスでの実践研修(~3年)→設備投資→ 就農(経営開始)
- ③[A技術研修 (1年) → マルチワーカー (~3年) →設備投資→ 就農 (経営開始)
- ④マルチワーカー (~3年) → 設備投資→ 就農 (経営開始)
- ③JA技術研修(1年) → アパートハウスへの入植 → 就農(経営開始)

#### B) 雇用就農を目指す場合

- ⑥[A技術研修(必要に応じて)→雇用マッチング支援→ 就農(雇用)
- ⑦マルチワーカー (~3年) → 派遣先での正社員登用 → 独立就農等(のれんわけ・分割移譲他)
- ⑧アルバイト → 技術研修又はマルチワーカー  $(\sim 3 \pm)$  → 雇用マッチング支援 → 就農 (雇用)

#### C) 継承就農を目指す場合

⑨[A技術研修又はマルチワーカー (~ 3年) → 基盤継承マッチング支援 → 就農 (継承経営開始)

#### D) 兼業就農を目指す場合

⑩農外就職支援 → JA技術研修 (必要に応じて) → 半就農 (経営開始)

# 壱岐で農業をやってみたいを 応援する支援策一覧

#### A 就農に向けた準備に関する支援

- ●最長2年間の就農技術研修(基本は1年間・延長可)
- \*就農準備期間に余裕を持たせ、施設計画・経営計画もしっかり支援

R3 ~運用開始

- \*1年間の農家研修の中で、農業経営のイロハをみっちり習得(1ヶ月は試用研修・年4回程度基礎研修(座学)もあり) \*基本の1年間はJAより研修支援金支給(月額10万円\*育成型/2年目は無し)
- \*育成型は国の就農研修支援事業助成金の対象(研修期間中最大13万円/月・最長2年)の受給対象
- ◎農業版マルチワーカー制度を活用した定住支援と技術習得支援(研修支援枠) R3~運用開始

→マルチワーカーとして派遣先(市内農家)で働くことにより、壱岐への移住及び定住促進に

- 必要な生活収入を担保しつつ、派遣期間中に農業技術の習得や卒マルチワーカー後の就農準備を進める取組み
- ❸トレーニングハウスでの模擬経営(自立経営の実践)
- ⇒JA所有研修ハウス (家賃制) において、模擬経営や初期投資無しでの経営実践を 行う取り組み(JA所有ハウス:R3現在・アスパラガス11a)

R4 ∼ 運用開始

#### B 就農リスクを軽減する為の支援

- ◎経営基盤の継承仲介への取り組み
- □牛舎やハウスなどの牛産施設の継承希望物件バンク整備 (譲渡モデル)
- →新規参入者(希望者)の初期投資抑制

R4 ~ 随時運用

R5を目途に

- ⑤就農時の負担軽減に向けた支援「(仮) 開業資金ゼロから始める農業経営」
- □JAで設置(予定)する園芸団地:アパートハウスへの通い農業
- →設備投資ゼロ (利用期間に応じた賃借料-必要な期間のみ利用可)・管理棟/水源/ 農具共用可・定期的な技術指導

体制整備

- □畜産参入に必要な設備投資等の負担軽減支援策の新設・拡充
- →ブリッジ型経営の畜産分野への運用検討・アパート牛舎検討・就農に伴う設備投資のパッケージ化と長期償還
- ◎被雇用型の就農支援への取り組み
- □島内雇用需要の調査・雇用環境のプラットフォーム化
- ★受入農家側の助成事業の活用相談もサポートセンターへ
- \*雇用募集状況(アルバイト含む)はJA公式ページから検索

運用開始

R4 ~

#### C 就農支援メリットの最大化(選択有利性確保)を目指す取組

∅新規就農者経営発展支援事業による償還助成を活用し、就農資金の負担軽減 (助成対象の資金借入は就農後3年まで・総額1.000万円まで)

既定

- 8 雇用拡充事業等の活用支援
- □壱岐ならではの参入助成制度のフル活用支援
- \*助成対象事業費:創業型最大600万円又は、雇用を伴う事業拡大 最大1,200万円

(補助率はいずれも3/4)

R4 ∼ 随時開始

#### D 受入上手な産地を目指す取組

- ◎就農を目的とした移住支援への取り組み
- □研修宿舎・カーリース・農地及び住宅斡旋

R6を目途に体制整備

- ●「半農半X」環境の整備に向けた取り組み
- →兼業就農支援(就農とセットの就職支援\*壱岐市と連携)

R5を目途に体制整備

●担い手コミュニティーによる仲間づくりと情報交換支援 □コミュニティー拠点の整備と定期的な研修の実施(オンライン講義等)

R4を目途に体制整備

⑩U・Iターンの取り込み強化

□都市部での就農相談活動・PR動画等の配信・WEB相談体制

R3 ~随時開始

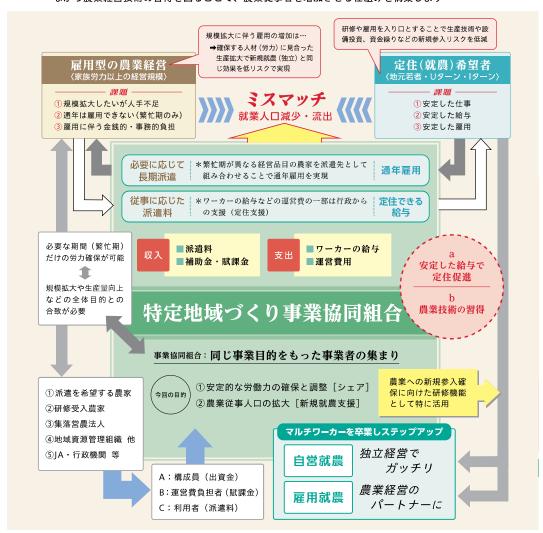




# 農業版マルチワーカーの活用による 農業従事者の拡大に向けて

#### 概要

国の新しい法律に基づく制度による総合的な労働力支援組織を設立し、壱岐市内での定住を希望す る者(市内の若者やU・Iターン希望者)を、雇用労力の受入を希望する農業者(規模拡大を志向 する者や労力不足に悩む者)に派遣する「マルチワーカー」として雇用し、安定した給与を確保し ながら農業経営技術の習得を図ることで、農業従事者を増加させる仕組みを構築します





# 魅力ある農業で豊かな生活を実現

# 農業マルチワーカー) 墓集!!

- ○将来、農業で生活したい方
- ○農業には興味があるけど、生活のための収入が不安な方
- 島外にいる家族に後継者としての帰島を願う方
- 農業をやってみたいけど、経験や知識がなく困っている方
- 壱岐に帰りたいけど、就職先が心配という島外で働く 壱岐出身の方
- 自然に囲まれた所で生活したいという移住希望の方

マルチワーカーを诵して、 技術を習得し農業を生業にしてみませんか?

マルチワーカーについてのお問い合わせ先

(JA壱岐市担い手支援課内)

深江田原(ふかえたばる)





# 集落営農への取組拡大に向けて [市内100組織へ]

地域農業を持続させていくための仕組みとして、地域の特性や目的、求められる機能に応じた集落 営農のあり方を体系づけ、地域ごとの進むべき目標の明確化と共有を図り合意形成を促進します 具体的には、以下の2段階方式での取り組みを進めます

- ①地域農業の活性化を図るための土台部分である「持続可能な農村のしくみ」づくり
- ② そこで働く機能 (経営体) としての「地域協同の担い手組織」づくり

背景

R3.4 現在:集落営農法人数30 (集落営農数9)

未組織化地区の割合70% → 壱岐の農地の半数以上が家族経営 (個別経営)

★平成後半から国の政策支援(補助金メリット)によって圃場整備地区を中心に集落 営農の組織化が進んできたが、これからは地域農業の生き残りをかけた仕組みとしての 組織 (機能) づくりが急がれる

# 目標 100組織(集落) \*人農地プラン実質化対象集落(大 109) のほぼすべてが組織化対象

\*人農地プラン実質化対象集落(大字単位で

### 「集落営農」の段階的発展(モデル)

集落営農組織間の 連携による相互補完

#### 第2段階の目標 担い手組織の育成 [真の担い手育成]

持続性が確保された体制

①組織の形態 ⇒ 法人 ②後継者の確保と育成 ③理念の共有 ④長期経営ビジョン ⑤構成員の参画

#### 自立経営の体制

①経営管理と生産管理(作業)の体系化 ②経営資源の効率化

\*協業型生産組合(資源・収益・費用の共通化)

#### 第1段階の日標 地域資源管理機能 の確立

[担い手の音つ環境づくり]

#### 農業生産・耕作が維持できる体制

①従事者の確保 ②営農装備 ③農地の利用調整機能 \*枝番管理型生産組合・機械共同利用・中間管理集積等

#### 農業資源が維持できる体制

①耕作不能農地の受け手調整 ②農業生産基盤の維持管理活動 \*中山間集落・多面的組織・水利組合など

#### 共同活動が実践できる体制

①目的をもった話し合いの場 ②共同活動への取り組みが機能 \*人農地プラン実質化集落・任意組織など

#### 「集落営農」とは... 地域農業を守るための仕組みの一つ

→「第2の担い手」(家族経営で補いきれないところを補うための組織であり、広域的な支援(連携)に 取り組む為の単位組織でもある)

\*第1の担い手:家族農業経営・第3の担い手:集落営農間の連携 こうしなければならないという既成概念を打ち破り、自分たちの集落にどのような機能が必要かをあらいだす

#### 具体的な取組計画1

#### [新規組織化対象地区]

R3~:新たな集落営農推進PRと運営モデル の検討

運営モデル→地域資源管理団体

/ 機構集積集落 R4~:モデル地区の設定と実践協議

★集落リーダーの確保と伴走支援

R6~: 運営モデルの普及による組織化拡大

R8 : 中間検討及び稼動組織の総点検 \*稼動組織は随時取組計画2へ移行

#### 具体的な取組計画2

#### 「既組織化対象地区〕

R3~: 集落営農総点検の実施

R4~:次世代へ引き継げる組織づくりに向けた取組

- ①経営機能の強化と組織内の担い手育成
- □ブリッジハウスを活用した多角化
- □ネクストリーダー育成 ②集落営農の機能分化
- (地域資源管理 ⇔ 営農機能の高度化)
- ③経営の効率化
- (しごとの見える化とデータ化による共有)
- ④法人間連携組織の検討

#### 3階票 法人間連携

#### 2階部分の生産活動を効率的に行うための組織・法人

◆集落単位の生産活動に生じる無駄や不足を、組織間の連携や広域的な専門組織により補う仕組み

【取組例】特殊機械の共同利用・組織間のオペレーターの派遣調整・事務の集約・ ブロックローテーション

集落単位 複数集落

#### 農業生産を共同又は集積により行う組織・法人

\*協業型生産組織/オペレータ型生産組織/生産法人

①土地利用型ブリッジ経営による育成支援(検討中)→ 必要な生産機能を一定期間リース(又は代行経営) 

②ブリッジ経営による園芸施設取得支援 ⇒ (IA直営農場)

1 階票 集落単位 ①集落の「人・農地・資源」が「見える化」されていて、②農作業の委託先や共同機械利用が機能 していること、③農地の受け手が確保されていること、④農地等の生産基盤の利用調整及び維持 管理に関する方向性について合意形成がなされている状態

【目標】→□人農地プランの実質化による見える化 □共同機械利用組織の組織化

□地域資源管理団体の組織化 □中間管理機構への集積

#### < 推進候補集落>

○中山間直払い取組組織 ○多面的機能支払い取組組織 ○人農地実質化推進集落





個

人

八の経営で

は解決できない

部分を補い

合う

\_

つ

の選択肢

# 集落営農の取組拡大に向けた支援対策

#### 1集落リーダーの育成と活動支援(助成)

□集落リーダー及び助言者の活動経費助成(県費他) □集落リーダーの掘り起こしに向けた専門的支援

#### 2集落組織担当の専任配置による伴走支援

□勉強会から話し合い、組織化(事務支援含む)まで専任の集落担当を配置し、継続した支援

#### 3担い手サポートセンターによる専門的支援

- □経理及び税務手続き → 記帳代行支援 □登記手続きや届出事務 → 毎週火曜の定例相談会
- □給与事務・社保等手続き支援 → 支援メニューに追加 □経営相談他 → 必要に応じて専門家を派遣
- □組織の定期点検の実施 □組織間の補完調整等 → 法人間連携の事務局など

#### 4 初期の経営安定へ向けたバックアップ支援

- □ブリッジ経営により軌道に乗った営農体系を導入
- ◆施設園芸バージョン (アスパラガス50a規模~他)
- → IA直営農場として一定期間経営後、軌道に乗った経営(施設込み)を地元組織へ移譲

【ねらい】投資リスク軽減・地域の担い手人材育成・雇用機会の創出(賃金の還元)

- ◆土地利用型バージョン (経営体育成支援)
- →「地域内のまとまりをもった農地」で「畦畔及び水利管理の地元完結」を条件に、必要な生産機能(機械類 オペレータ等)を一定期間リース又はJA等が代行経営を行い、自立経営の目途が立った時点で経営移譲

【ねらい】取り組みに係る合意形成支援(お試し集落営農)と初期投資の負担軽減

#### 5 設備投資助成対策の活用支援

□農業機械類の導入助成事業

- → 構造改善加速化支援事業(農業機械類)
- → ながさき水田農業生産強化支援事業(作業機等)
- → 担い手確保・経営強化支援事業(農業機械類)

#### □園芸施設等の導入助成事業

- → 構造改善加速化支援事業(園芸施設等)
- → 担い手確保・経営強化支援事業 (園芸施設等)

\*R3.7現在

→ 産地パワーアップ (ハウス類)

#### 6 農地情報管理活用支援 (データ化と運用)

□GIS地図情報と営農情報を紐付け、 管理の効率化を支援

#### 7 労力確保支援(移住受入含む)

- □不足労力の集約(雇用需要のプラットフォーム化)により、 農外からの参入確保(雇用就農)支援
- → 研修事業・マルチワーカー受入も活用(スポット・オペレータ)

#### 8 基盤整備支援 (再整備含む)

- □農地中間管理機構関連農地 整備事業(地元負担ゼロ~)
- → 5 ha~(中間管理機構への 15年紹の利用権設定)



# 今後の地域・農業について集落での 話し合いを始めましょう

#### 地域農業の役割とは?

- ①集落機能の維持〈ヒト〉 【後継者の確保・共同作業…】
- ②農地資源管理〈モノ〉 【農地・農道・水路・環境…】
- ③農業経営の継続〈カネ〉 【経営収支·設備投資·承継…】

#### 共通する課題

- ①従事者の高齢化
- ②農家(地域)の 後継者不足
- ③荒廃地の増加
- 4 機械投資の負担増 など

#### - 第1の担い手-

「家族経営」

「認定農業者」

「新規就農者」

#### 地域農業を次の世代に引き継いでいくために

- ①農作業の共同化・効率化
- ②作物の団地化
- ③経費や設備等の共同化
- ④農地の受け手機能
- ⑤組織として後継者の育成・確保
- ⑥資源管理の共同化

# 集

今のままで、引継いでいけますか? 引き継いでいくために… ①何をしますか? ②何が必要ですか?

## 従事者の年齢構成(現在と○○年後)や○○年後の 耕作の状況をシミュレーションしてみましょう



\*何歳まで今と同じような 作業ができますか?



\*耕作できない世帯の農地や、 島外在住者の農地も増えています

# Ⅲ 部門別振興方針 2.農産園芸部門 ~品目別具体策と取り組み計画~



# ~黄金に輝く島『壱岐』の復活~

「つや姫」を始めとした高温耐性品種の作付と用途限定米穀の導入によって、水田農 業経営の効率化と農家所得の向上を図ります

#### 集荷量10万袋へ

- 米主体の経営モデルとして、主食用米に加えて、多収性品種を活用した用途限定米穀に 取り組みます(目標:主食用米 1.000ha、用途限定米穀 200ha)
- ■高温耐性品種などの生産適性の高い品種への転換を進めます
- ■作業受託組織の育成と支援により、生産継続を図ります
- 全量集荷促進として保有用白米事業の取り組みを拡充します

#### 所得向上へ向けて

- ■良食味米栽培の取り組みを進め、つや姫プレミアム米の取扱量を増やします
- ■低コスト資材への転換により生産費を現行より目標10%削減します
- ■機械投資の抑制へ向けた法人間連携などにより、経営資源の効率化を進めます

#### 年次計画

	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	850	900	950	1,000	1,200
数量	85,000袋	90,000袋	95,000袋	100,000袋	120,000袋
主な取組	★部会加入 簡略化	★栽培時期 分散実証	★安定多収 栽培確立		

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 1億円

販売高 4.6億円 栽培面積 835ha 集荷量 5.6万袋

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 3億1,500万円

販売高 10億円 栽培面積 1,200ha 集荷量 12万袋

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [つや姫令和12年度目標数値]

	項	目		金 額・数 値	備  考			
, lber	粗収益	〔販売金	額)	143,000円	531kg×270円			
収   益	助	成	金	8,000円	環境保全			
1111	収	益	計	151,000円				
	種	苗	費	12,000円	※購入苗の場合			
費	肥 料	農薬	費	24,500円	早期米基準			
	作業	作業委託費等		43,500円	移植・収穫・ヘリ防除			
用	流通	出 荷 経	費	23,500円	18袋 (30kg)×@1,314円			
		計		103,500円				
差	引	所	得	47,500円				
所	得率			31%				
労	勞 働 時 間			10hr				
時	間当	り所	得	4,750円/hr				

									1用	悝	1910	4人1支
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
早期米				•								
普通期米				•	• •	<b>•</b>						



~販売高全国No.1の産地を目指して~

新規栽培に取り組みやすい仕組みづくりによって、新規就農者やU・Iターン就農者を 増やし、安定した栽培技術で販売高1.000万円以上の経営体を育成し、販売高10億円の 産地を目指します

### 夢のある経営と、ゆとりある栽培スタイルの確立へ向けて

- ■新卒就農者及びセカンドキャリア、U・Iターン就農者の呼び込み強化と定着促進を 図ります(目標:10年後30人)
- ■トレーニングハウスの活用により、模擬経営や経営実践を行い、栽培技術と経営力の 研鑽を図ります
- スマート農業技術の導入による収益性の向上と、生産データに基づく新規参入者の安定 生産技術の早期習得を行います

#### アスパラガス団地の形成へ向けて

- IA主導型園芸団地として、販売高1億円規模の団地を10年後に5団地の形成を 目指します
- 法人向けブリッジ型ハウスを10年後、3か所を目標に取り組みます

#### 年次計画

	令和4年度	令和6年度		令和8年度	令和10年度		令和12年度	
面 積 (ha)	13.5	14.5		19		24		32
数量	405t	435t		570t		720t		960t
主な取組	★団地化 候補地選定	★A1号団地 (3ha)		★A2号団地 (3ha) ★ブリッジ型		★A3,A4号団地 (6ha) ★ブリッジ型		★A5号団地 (3ha)
	★ブリッジ型ハウス 候補地選定	★ブリッジ型 第1次ハウス(1ha)		第2次ハウス(1ha) ★ブリッジ型 第1次移譲		第3次ハウス(1ha) ★ブリッジ型 第2次移譲	,	★ブリッジ型 第3次移譲

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 1億7,600万円

販売高 3.6億円 栽培面積 13.6ha 集荷量 356t

## 目標(令和12年度)

農家所得※2 5億7,280万円

販売高 10億円 栽培面積 32ha 集荷量 960t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

## ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項	目		金 額・数 値	備考
粗丩	又益(販	売 金	額 )	3,600,000円	3,000kg×@1,200円/kg
	種	苗	費	100,000円	※初年度のみ
費	肥 料	農	薬 費	300,000円	
	減 価	償	却費	750,000円	ハウス等
用	流通	出荷	経 費	660,000円	3,000kg×@220円/kg
		計		1,810,000円	
差	引	所	得	1,790,000円	
所	有 率		率	50%	
労	労 働 時 間		間	1,200hr	
時	時 間 当 り 所 得			1,490円/hr	

									◆定種	▲ 全	:XIJ	保湿	
作	型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	年 目			•	<b>♦</b>			株	養 成	期間			<b>A</b>
2	年 目	•—•											
3	3 年 目	<b>AA</b>	0-0										





高収益の魅力により、新規就農者や∪・┃ターン就農者の確保に努め、販売高1.000万円 以上の専作経営体の拡大を進めます。更に、新たな栽培技術の導入、労力軽減を図り、 販売高3億円の産地を目指します

~10a当り所得No.1! 儲かるいちご栽培へ~

#### 儲かる専作農家の育成へ向けて

- 販売高1.000万円農家(経営規模20a以上)の育成(目標:10年後10戸)
- 施設園芸では特に高度な栽培管理技術と高額な設備投資が必要であるため、トレーニング ハウスからのアパート経営の就農ルートを活用します
- ■環境制御技術や、簡易高設ベンチ栽培の導入を進め、収益性向上と労力軽減により、 ゆとりあるいちご経営を進めます

#### 産地力の向上へ向けて

- ■品種の特性を最大限に活かし、出荷量の平準化と高品質化により、実需者との信頼 関係を築きます
- 多様化するニーズへの対応とあわせて、規模拡大に伴う省力化対策として出荷形態の簡 素化と、共同選果体制の拡充を進めます

# 年次計画

	令和4年度	令和 6 年度	令和8年度		令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	3.4	4.0	5.0	\	5.5	6.7
数量	142 <b>.</b> 0t	168 <b>.</b> 0t	210.0t	A	230 <b>.</b> 0t	300 <b>.</b> 0t
主な取組	★簡易高設ベンチ 栽培導入拡大	★ベンチ栽培 への転換促進	★パッケージ センターの		<b>★</b> S2団地	
上な収組	★団地化 候補地選定	★S1団地 (1ha)	拡充		(1ha)	

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 1億1,600万円

販売高 1.7億円 栽培而積 3.1ha 集荷量 138t

## 目標(令和12年度)

農家所得※2 1億8,900万円

販売高 3億円 栽培面積 6.7ha 集荷量 300t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
粗丩	又益(販売金額)	5,400,000円	4,500kg×1,200円/kg
	種 苗 費	30,000円	
費	肥料農薬費	220,000円	
	諸 材 料 費	550,000円	減価償却含む
用	流通出荷経費	1,200,000円	4,500kg×268円/kg
	計	2,000,000円	
差	引 所 得	3,400,000円	
所	得率	63%	
労	働 時 間	2,000hr	
時	間当り所得	1,700円/hr	

### ■作業休系

- '	F / 1-	F /IN						●採	苗	定植	◆ 親杉	<b></b> 定植	収穫
作	型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
1	年 目										<b>•</b>		
2	年 目				•					<b>•</b>			
3 年	本圃												
目	育苗				•					<b>•</b>	<b>•</b>		



### ~ 壱岐産アムスメロンを全国ブランドへ~

魅力ある経営実践モデルを進め、所得安定度No.1の春アムスの作付拡大を図り、更なる ブランド化促進と、他品目との輪作体系を確立し、販売高 7 千万円を目指します

## "島メロン"のブランド化へ向けて

- ■需要拡大に応じて、計画的な生産団地の形成を行います
- ■壱岐の特産品としての地位を確立し、顧客の囲い込みと島外宅配及び直売を中心に つながりのある販売を展開し、流行に左右されない安定的なブランド戦略を進めます

#### 取り組み易いメロン栽培へ

- ■メロン用の低コストハウスとして現行より安価なハウス導入を進め、初期投資の 軽減を図ります
- ミニトマト等との輪作体系により年間収入を確保し、所得の安定を図ります
- アパートハウスへの「通い農業」による新規生産者の確保を図ります

### 年次計画

	令和4年度		令和 6 年度 - —————		令和8年度		令和10年度		令和12年度
面 積 (ha)	3.5	l l	4.0		4.0		5.0		5.0
数量	87 <b>.</b> 0t	N	100 <b>.</b> 0t		100.0t	A	125 <b>.</b> 0t		125 <b>.</b> 0t
主な取組	★M1アパート ハウス建設 (0.5ha)				★M2アパート ハウス建設 (1ha)				

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 2,310万円

販売高 4,300万円 栽培面積 3ha 集荷量 71t

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 3,710万円

販売高 7,000万円 栽培面積 5 ha 集荷量 125t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
粗丩	又益(販売金額)	1,500,000円	500箱×3,000円/5kg箱
	種 苗 費	120,000円	※苗購入の場合
費	肥料農薬費	45,000円	
	諸 材 料 費	430,000円	減価償却含
用	流通出荷経費	112,000円	500箱×225円/5kg箱
	計	707,000円	
差	引 所 得	793,000円	
所	得率	53%	
労	働 時 間	460hr	
時	間 当 り 所 得	1,720円/hr	

									●播	性 🤻	) 正框	収穫
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春メロン		• •	<b>-</b>									
秋メロン								• •				



所得の安定化へ向けた経営モデルの実践を進め、新規参入者の確保と個別栽培面積 の拡大を図り、夏秋栽培産地の地位確立により、販売高9千万円を目指します

ミニトマト夏秋栽培産地の確立へ~

# 所得向上へ向けて

- ■省力化向け有望品種の高収量生産技術の確立と普及により、個別栽培面積の拡大を 図ります(目標:栽培面積1.5倍)
- ミニトマト + α の作付で年間所得を確保します

### 新規参入者増大へ向けて

- ■新規参入者の確保(目標:10年後10人)
- ■アパートハウスへの「通い農業」による新規生産者の確保を図ります

### 年次計画

	令和4年度		令和6年度		令和8年度		令和10年度		令和12年度
面 積 (ha)	1.2	l l	1.7		2.0		3.0		4.0
数量	36 <b>.</b> 0t	N	51.0t		60 <b>.</b> 0t		90 <b>.</b> 0t		120 <b>.</b> 0t
主な取組	★M1アパート ハウス建設 (0.5ha)				★M2アパート ハウス建設 (1ha)				

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 520万円

販売高 1,200万円 栽培面積 1.1 ha 集荷量 20t

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 4,040万円

販売高 9,000万円 栽培面積 4ha 集荷量 120t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金 額・数 値	備考
粗丩	又益(販売金額)	2,250,000円	3,000kg×750円/kg
	種 苗 費	260,000円	
費	肥料農薬費	122,000円	
	諸 材 料 費	320,000円	
用	流通出荷経費	538,000円	
	計	1,240,000円	
差	引 所 得	1,010,000円	
所	得率	45%	
労	働 時 間	600hr	
時	間当り所得	1,680円/hr	

										•	<b>止</b> 恒	収慢
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
夏秋栽培						•	•					



~露地園芸品目の柱へ~

安定した栽培技術の普及と作業受託体制の強化により、販売高1千万円以上の専作 農家を育成し、販売高1億円の産地を目指します

## ブロッコリーを人気者にしよう

- ■作型による品種検討を毎年度行い、安定した所得確保を目指します
- 契約販売の割合を現行2割から目標5割まで拡大し、安定した販売ルートを確保します
- ■加工業務用の取り組みを進め、出荷製品率を高めます(R3年~実証開始)

# 取り組みやすくて儲かるブロッコリーへ

- 作業受託体制を充実させ、新規栽培に取り組みやすい環境を整えます
  - 育苗~圃場準備~定植~防除の一貫した作業受託の充実
  - 定植機など機械リース事業の拡充
  - 全量共同選果による出荷調整労力の大幅軽減

### 年次計画

	令和 4 年度	令和6年度		令和8年度		令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	14.0	16.0		20.0		25.0	30.0
数量	21,000箱	24,000箱	A	30,000箱	A	37,500箱	45,000箱
主な取組	★加工業務用 品種栽培開始	★受託事業・ 機械リース 事業拡充		★共選体制 拡充			

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 600万円

販売高 2,000万円 栽培面積 12ha 集荷量 66t

## 目標(令和12年度)

農家所得※2 3,120万円

販売高 1億円 栽培面積 30ha 集荷量 270t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
粗丩	又益(販売金額)	345,000円	150箱×@2,300円/6kg
	種 苗 費	58,000円	※購入苗の場合
費	肥料農薬費	49,000円	
	作業委託費等	21,000円	畝立+定植/クローラー防除
用	流通出荷経費	109,500円	150箱×@730円
	<b>計</b>	237,500円	
差	引 所 得	107,500円	
所	得率	31%	
労	働 時 間	90hr	
時	間 当 り 所 得	1,194円/hr	

									1田・	1284	足旭	4人1支
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋穫り							•—	•	•			
冬穫り								•—•	•	•		
春穫り	•—	•	<b>•</b>									



~農地フル活用で産地拡大へ~

露地野菜の主力品目として、法人等新規栽培者を育成し、水田活用品目として労力支援 や省力化対策により、販売高1億円の産地を目指します

### 水田でかぼちゃを作ろう

■排水対策と土壌改良を徹底し、水田作付かぼちゃの収量向上に取り組みます ⇒水田畑地化の技術確立

#### 出荷製品率を上げよう

■加工業務用の販売ルートを拡大し、特に市場に出せない規格の一次加工品の検討を 行い、売り切る販売への取り組みにより所得の向上に努めます

### 軽々かぼちゃへの取り組み

- ■収穫支援隊を組織し、収穫作業の労働負担を軽減します
- ■鉄コンテナ出荷など出荷形態の簡素化を図ります

#### 年次計画

	令和4年度		令和6年度	令和8年度	令和10年度		令和12年度
面 積 (ha)	18.0	L L	20.0	25.0	28.0		30.0
数量	23,400箱	L	26,000箱	32,500箱	36,400箱	l	39,000箱
主な取組	★収穫支援		   ★一次加工開始 				
	体制整備		★買取販売開始				

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 2,640万円

販売高 4,800万円 栽培面積 17ha 集荷量 170t

### 目標(令和12年度)

農家所得※2 5,860万円

販売高 1億円 栽培面積 30ha 集荷量 390t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表「令和12年度目標数値]

	項 目 <b>双益(販売金額)</b> 種 苗 費  肥料農薬費  資材・委託費等	金額・	・数値	/## #Z
	垻 日	春かぼちゃ	貯蔵かぼちゃ	備考
粗丩	<b>仅益(販売金額)</b>	360,000円	330,000円	春:150箱 貯蔵:120箱
	種 苗 費	24,000円	34,000円	※購入苗の場合
費	肥料農薬費	38,000円	41,000円	
	資材・委託費等	39,000円	31,000円	マルチ・マルチ張り委託
用	流通出荷経費	35,000円	75,000円	貯蔵:貯蔵選果費含
	計	136,000円	181,000円	
差	引 所 得	224,000円	149,000円	
所	得 率	62%	45%	
労	働 時 間	235hr	151hr	
時	間当り所得	950円/hr	985円/hr	

_ 11 /14 1	. /!					•	播種	◆定植	収	穫 🔺	貯蔵	出何
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
春かぼちゃ			•—•	<b>\</b>								
貯蔵かぼちゃ								••				



水田活用品目として、機械化一貫体系の確立と、契約販売による安定した収益を確保し、 販売高3千万円の産地を目指します

## 収量向上へ向けて

■排水対策と土壌改良を徹底し、水田作付にんにくの収量向上に取り組みます ⇒水田畑地化の技術確立

#### 機械化一貫体系の確立へ

- ■各種機械の導入を行い、省力化を図ることで、法人等への作付拡大を進めます
- ■乾燥機の増設と保管庫の整備により、品質の安定と出荷製品率向上を図ります
- ■乾燥調製施設の整備とあわせて、共同選果に取り組みます

#### 壱州にんにくの産地復活へ

- ■島内採種を行い、壱岐の気候に適応した種子の安定供給に取り組みます
- 契約販売を含め安定的な販売ルートを確保するとともに、市場評価の向上に努めます

## 年次計画

	令和4年度		令和6年度		令和8年度	令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	2.0		2.5		3.0	4.0	5.0
数量	16 <b>.</b> 0t		20.0t		24 <b>.</b> 0t	32 <b>.</b> 0t	40 <b>.</b> 0t
	★島内採種開始	<b>)</b>	★共同選果開始		★契約販売拡大		
主な取組	★機械受託 体制整備	,	★選果機導入	<b>/</b>	★保管施設整備		

#### ■農家所得目標と経営試算

現状(令和2年度)	目標(令和12年度)
農家所得 <sup>※1</sup> -万円	農家所得* <sup>2</sup> 1,265万円
販売高 280万円 栽培面積 1.7ha 集荷量 6.5t	販売高 3,000万円 栽培面積 5ha 集荷量 40t

※1 天候不順により不作

※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金 額・数 値	備考
粗↓	収益(販売金額)	600,000円	800kg×750円/kg
	種 苗 費	200,000円	※全量種子購入の場合
費	肥料農薬費	46,000円	
	作業委託費等	60,000円	植付・収穫委託
用	流通出荷経費	41,000円	
	計	347,000円	
差	引 所 得	253,000円	
所	得    率	42%	
労	働 時 間	250hr	
時	間 当 り 所 得	1,000円/hr	

# ■ 作業 休 至

- '		F 711								◆定	植	収穫	出荷
作型	型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露	地									<b>•</b>	-		



~法人におすすめ'その1'水田活用で高菜栽培~

水田活用品目として、作業労力支援や出荷形態の簡素化を行い、法人等の露地園芸栽培の 足掛かりとして推進を図り、販売高2.3千万円の産地を目指します

# 6t/10aへの挑戦

■水田畑地化の推進とフォアスシステムの導入により水田栽培技術を確立します

#### 労力軽減へ向けて

■作業受託事業(機械リース)と収穫支援体制を構築します

### 壱岐産高菜の商品開発へ

■実需者と連携し、壱岐産ブランド商品の開発に取り組みます

# 年次計画

	令和4年度	令和6年度	令和8年度		令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	3.0	4.0	5 <b>.</b> 0		7.0	10.0
数量	132 <b>.</b> 0t	176 <b>.</b> 0t	220 <b>.</b> 0t	l	308 <b>.</b> 0t	440 <b>.</b> 0t
主な取組	★収穫支援 体制整備	★受託事業・ 機械リース 事業拡充				

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度) 農家所得※1 69万円 販売高 200万円 栽培而積 2.4ha 集荷量 46t

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 1,210万円

販売高 2,300万円 栽培面積 10ha 集荷量 440t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
.1177	粗収益(販売金額)	200,000円	5t×40円/kg
収益	助 成 金	75,000円	
11111	収 益 計	275,000円	
	種 苗 費	30,000円	※購入苗の場合
費	肥料農薬費	45,000円	
	作業委託費等	10,000円	定植等
用	流通出荷経費	69,000円	
	計	154,000円	
差	引 所 得	121,000円	
所	得率	44%	
労	働 時 間	83hr	
時	間 当 り 所 得	1,450円/hr	

	. /!								●播	種 🦣	定植	収穫
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
冬穫り								•	•	•		





水田活用品目として、作業受託支援や出荷形態の簡素化を行い、法人等の露地園芸栽培の 足掛かりとして推進を図り、販売高2.2千万円の産地を目指します

法人におすすめ'その2'水田活用でたまねぎ栽培~

#### 利益率の向上へ

- ■水田畑地化の推進とフォアスシステムの導入により水田栽培技術を確立します
- ■共同育苗と受託育苗による育苗労力低減に取り組みます
- ■圃場管理システムの導入により収穫適期の予測精度向上に取り組みます

#### 加工たまねぎの販売強化へ

- ■買取販売により所得の安定を図り、新規生産者の確保に努めます
- ■選果ラインの整備により、販売先の拡大を図ります

# 壱岐産たまねぎのブランド化へ

- ■超極早生から晩生までのリレー生産体制を確立します
- ■壱岐の気候に合う品種の選定を行います

### 年次計画

	令和4年度		令和 6 年度		令和8年度		令和10年度		令和12年度
面 積 (ha)	4.5	1	5.0		5.5	1	6.0		7.0
数 量	225 <b>.</b> 0t		250 <b>.</b> 0t	l	275.0t	L	300 <b>.</b> 0t		360 <b>.</b> 0t
主な取組	★圃場管理 システム試験導入	7	★受託育苗開始		★選果ライン整備	7		7	
土な収組	★超極早生品種導入	,	A X III A MINA		大	,			

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 370万円

販売高 830万円 栽培而積 4.2ha 集荷量 110t

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 1.210万円

販売高 2,200万円 栽培面積 7ha 集荷量 360t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
粗↓	収益(販売金額)	300,000円	6t×50円/kg
	種 苗 費	50,000円	※自家育苗の場合
費	肥料農薬費	70,000円	
	作業委託費等	15,000円	畝立・機械リース(定植・収穫)
用	流通出荷経費	0円	買取販売の為
	計	135,000円	
差	引 所 得	165,000円	
所	得率	55%	
労	働 時 間	120hr	
時	間 当 り 所 得	1,375円/hr	

										<b>■ 1</b> HI	138	是個	4人1支
作型	区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
青	果											•	
加	エ											•	





豆類は、小面積から栽培可能で、他品目との複合経営により、年間収益を確保できます 軽量品目の特徴を活かし、新規栽培者の増加を図り、販売高2.6千万円の産地を目指します

~小さな面積から大きな収入を~

### 取り組みやすさが魅力の豆類

- ■初期生産費の負担が小さく、小面積から取り組めます
- 品種によっては、播種から収穫まで2か月と短期間です
- ■共同選果の導入により、出荷調整の省力化に取り組みます
- 農福連携による作業の分業化を進め、労力支援体制の強化を図ります

#### 年次計画

	令和 4 年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	0.8	1.0	1.5	1.8	2.0
数量	10.4t	13.0t	19.5t	23.4t	26.0t
主な取組			<ul><li>★共同選果開始</li><li>★買取販売開始</li></ul>		

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得\*1 100万円

販売高 200万円 栽培面積 0.7ha 集荷量 3t

# 目標(令和12年度)

農家所得\*\*<sup>2</sup> 1,700万円

販売高 2,600万円 栽培面積 2ha 集荷量 26t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

#### ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	洒			金 額	・数値	/# #Z
	項	B		スナップ	いんげん	情 考 
粗」	<b>仅益(販</b>	売金	額)	1,500,000円	900,000円	
	種 苗 費		費	40,000円	15,000円	
費	肥料	農薬	<b>費</b>	97,000円	85,000円	
	資材・	委託	費等	314,000円	61,000円	マルチ・マルチ張り委託等
用	流通	出荷紅	径費	106,000円	117,000円	
		計		557,000	278,000	
差	引	所	得	943,000	622,000	
所	得		率	63%	69%	
労	働	時	間	344hr	450hr	
時	間当	り所	得	2,740円/hr	1,380円/hr	

作 型	区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
スナップ	露地								•	-			
エンドウ	ハウス									•—			
いん	げん			•	•				•	•			



~イキイキ花づくりで、花き1億円産地へ~

露地小菊と施設花きを中心とした栽培で、周年継続出荷により、安定した収益が見込めます 小菊は盆彼岸出荷を中心に、施設花きは需要期出荷と輪作体系で収益が確保でき、花き全体 で販売高1.3億円を目指します

## イキイキ花づくり

- ■新規参入者を10年後、10人を目指します
- ■作業受託体制を充実させ、省力化による規模拡大を図ります

### 露地小菊を経営の柱へ

- 作型分散による継続出荷で、年間販売高1,000万円以上の専作農家を育成します
- ■作型に適した品種試験と導入を進めます

#### 施設花きの振興

■年間3品目出荷の経営モデルを確立します (小菊+ストック+ひまわりのブロックローテーションで周年出荷)

#### 年次計画

	令和4年度	令和6年度	令和8年度	令和10年度	令和12年度
面 積 (ha)	10.0	10.5	11.0	11.5	12.0
数量	1,800千本	1,890千本	1,980千本	2,070千本	2,500千本
主な取組	★作業支援 体制整備	★年3品目栽培 体系確立	★共同選花場整備		

### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 3.250万円

販売高 7,300万円 栽培面積 10.5ha 集荷量 183万6千本

# 目標(令和12年度)

農家所得※2 6,500万円

販売高 1億3,000万円 栽培面積 12ha 集荷量 250万本

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

## ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項 目	金額	・数値	備考
	-	小 菊	ストック(施設)	畑 ち
粗」	収益(販売金額)	1,375,000円	1,750,000円	
	種 苗 費	36,000円	102,000円	
費	肥料農薬費	135,000円	160,000円	
	資 材 費	250,000円	450,000円	減価償却含
用	流通出荷経費	165,000円	283,000円	
	計	586,000円	995,000円	
差	引 所 得	789,000円	755,000円	
所	得率	57%	43%	
労	働 時 間	500hr	550hr	
時	間 当 り 所 得	1,570円/hr	1,370円/hr	

ストック								<b>—</b>	<b>—</b>	•		
盆小菊			1		×							
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
						●播	植	押し芽	◆定	. 植	消心	■収穫



# ~ 壱岐産のおいしい果樹で、地産地消の年間供給へ~

消費者が好む売れる品種への転換を進め、年間を通した安定供給体制を確立と収益性の向上 により、新規生産者を増やし、販売高5千万円を目指します

#### 安定供給計画

- 10月(極早生) ⇒ 11月(早生) ⇒ 12月(西南のひかり) ⇒ 1月(天草) ⇒ 2、3月 (麗紅、伊予柑)のリレー出荷による安定供給を行います
- ■中晩柑で10a販売高100万円以上を目指す取り組みを進めます

## おいしい柑橘を作ろう

- ■マルチ栽培の普及で差別化を図ります
- ■有望中晩柑の栽培技術の確立でおいしい柑橘の安定生産を行います

# 柑橘補完計画

- 多品目栽培によるリレー出荷により作業分散を図り、栽培の継続につなげます
- ■他の品目との組み合わせにより、新規生産者の確保に努めます

#### 年次計画



### ■農家所得目標と経営試算

# 現状(令和2年度)

農家所得※1 370万円

販売高 600万円 栽培而積 8.2ha 集荷量 18.2t

## 目標(令和12年度)

農家所得※2 2.400万円

販売高 5,000万円 栽培面積 5ha 集荷量 150t

※1 第8次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得です ※2 第9次営農振興計画の10aあたり経営試算表(所得率)を基に算出した作付け農家全体の概算所得目標です

## ■10a当り経営試算表 [令和12年度目標数値]

	項目	金額・数値	備考
粗」	収益(販売金額)	750,000円	1.5t×500円/kg(主要中晩柑)
	種 苗 費	120,000円	※初年度苗代
費	肥料農薬費	141,000円	
用	流通出荷経費	130,000円	
	ā <del>t</del>	391,000円	
差	引 所 得	359,000円	※導入5年目試算
所	得率	48%	
労	働 時 間	200hr	
時	間 当 り 所 得	1,795円/hr	

# ■作業休系

	. /!									,	男定	■収穫
作型区分	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
温 州			×									
主要中晩柑			×									



#### 新たに導入する戦略品目

# 1品目1億円の 産地づくり

農地(水田)の収益向上のため、農地を効率的に 活用して、排水対策と土壌改良の徹底により 安定した経営を目指す。

# ばれいしょ 「ながさき黄金」



おすすめ ポイント

- ●土地利用型作物として機械化が容易であることから大規模経営 に適した品目
- ●二期作栽培が可能

導入にあたっての 今後の支援策

- ●機械化一貫体系の導入
- ●共同選別施設(土落とし、規格選別、箱詰め)の整備
- ●収穫に対しての労力支援

主 な 作 付 推進対象者

- ●集落営農組織(水田裏作…麦の代替品目)
- ■露地専作農家(春・秋作での専作)

# ◆定植 ■収穫 型 名: 栽 培 4月:5月:6月:7月:8月:9月:10月:11月:12月:1月:2月:3月 秋作:露地 ばれいしょ 冬作 マルチ マルチ

# ★輪作体系で、所得倍増!

# 枝豆



おすすめ ポイント

- ●土地利用型作物として機械化が容易であることから 大規模経営に適した品目
- 大豆栽培は壱岐に根差した技術

導入にあたっての 今後の支援策

機械化一貫体系の導入

主 な 作 付 推進対象者

集落営農組織





# 産直部門の振興方針

# JA産直部門の 目指すビジョン



#### 直売所ブランドの確立と地産野菜流通センター構想

- ◆「商品数」「品揃え」「情報」で地域一番へ
- →野菜の専門店機能の充実 (野菜ならなんでもそろうを実現)
- ◆地産野菜流通の情報集約と発信(流通センター化)
- →取引情報や入荷見込の集約と提示 (本日の入荷情報・本日の取引価格・週単位での入荷見込など)
- ➡市況調査と指標値の提示による適価販売の徹底

#### IT を活用した生産者向け総合支援体制

- ◆栽培技術支援
- ◆予約販売
- ◆売上予測

- ◆出荷予定の集約
- ◆追加納品対応

#### 希少野菜や付加価値を付けた企画商品の 開発と営業代行

- ◆専任バイヤーの配置による営業強化
- ◆企業に向けた商品・サービス提供の強化 (BtoBの実践)



#### 1) 地産野菜の販売対策

- ●適価販売と野菜の専門店化
- ◆ 「商品の価値に付加する情報」による差別化
  - → 「商品プラス」
- \*野菜ソムリエや専任バイヤーにより、商品の概要・旬と出回り時期・ 見分け方・調理や保存方法などを作成し、商品の価値に情報をプラス
- ◆適価販売に向けた売り場指導
  - 「適価」:「再生産価格」+「付加価値」±「市況と需給」
  - →価格破壊の防止と品質監視(生産者及び消費者保護)
- ❷常時定量販売と売れ残りゼロに向けて
- ◆規格外品の商品化に向け、加工品開発(外部委託)や加工原料取引に 向けた異業種間の連携を進める



- ❸業務用(卸)の販売強化
- ◆店頭(消費者)販売分とは区分 した取引体系を構築
  - →受注方法・取引価格・納品や ストック対応

# 2) 地産野菜の出荷対策

- ●拠点一元出荷による地産野菜のサプライチェーンの構築
- ◆店頭販売と業務用・契約販売の区分集荷
- ◆島内卸 (スーパー・小売り・飲食店) も体系化
- ❷オーダー出荷
- ◆業務用受注に応じたオーダー出荷体制の構築
  - →計画生産と契約生産グループの育成





# | |3)地産野菜の生産対策

- ●生産農家の拡大に向けて直売利用資格の緩和と区分
  - ◆「ふれあい友の会」の会員拡大と機能グループへの転換
  - →生産・販売+交流を目的
  - ◆生産農家の新規育成
    - →定時定量供給を目的とした生産農家の確保と育成
- ❷委託生産の拡大
  - ◆契約生産グループの育成により、出来たものを売るから、売れるものを 計画的に作るへ(目標: R4~10名、R5~10名)
- ❸生産支援の実施
  - ◆種苗及び作付け資材の支援対策と技術支援により、重点品目の安定供給を 図る

# 4)農産加工部門の振興

- ●技術の継承と伝統商品の価値向上
- ◆加工技術と品質を継承する取り組み
- →後継者の育成支援
- →加工部会等の事業継承支援
- ❷新たな商品企画
- ◆民間企業との連携
- ◆外部委託による新規加工品の開発





# ■主な取り組み事項と年次計画

R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12
	R4∼	野菜ソル	ゝリエの	育成計5	人程度	(職員・	生産者)		
	R4∼	専任バイ	イヤーの	配置 1:	名				
			_		_				
		「商	品プラ	ス」戦略	の展開				
			\ <del>_</del> \_\						
		R5 ~	流通セ	ンター機	能の允	<b>美</b> ———			
		DE -	BtoB <i>ග</i>	\ +r÷ - <b>4</b> -					
		K5~	БГОВО	加入					
			₽6~	IT支援I	買情の敷	(借			
			KO .	11 又 1反 4	根がなり正	E I/H3			
		R5~	出荷体制	制の見直	įυ				
			R6∼	拠点集荷	苛の実施	i			
				R7∼	一元集荷	<b>하体制の</b>	整備		
R3~	生産支	援の実施	te						
	R4~	委託生產	童の拡大	・契約	生産グル	<b>,一</b> プの	育成計算	20名	





# ■農畜産物の販売高計画

区	品目	令和 2 年度 実績			令和 4 年度			
分	H I	面積 (ha)	数量	金額(千円)	面積 (ha)	数量	金額(千円)	
畜	子 牛		4,052頭	2,856,722		5,060頭	3,536,000	
	成 肉 牛		277頭	91,693		250頭	75,000	
	妊 娠 牛		244頭	152,417		200頭	120,000	
	初 妊 牛		80頭	107,847		80頭	88,000	
産	枝 肉(去勢)		488頭	561,130		500頭	550,000	
1/2	枝 肉(未 経 産)		358頭	364,117		400頭	400,000	
	枝 肉(そ の 他)		176頭	61,440		280頭	84,000	
	畜 産 計		5,675頭	4,195,366		6,770頭	4,853,000	
	*	835.0	56,337袋	456,476	850.0	85,000袋	680,000	
	麦	190.0	26,717袋	30,411	200.0	30,000袋	30,000	
	大 豆	65.0	1,213袋	14,220	70.0	1,900袋	12,000	
	アスパラガス	13.6	356 <b>.</b> 0t	359,966	13.5	405 <b>.</b> 0t	425,250	
	いちご	3.1	138 <b>.</b> 0t	170,670	3.4	142 <b>.</b> 0t	175,000	
	メロン	3.0	<b>71.</b> 0t	42,653	3.5	87 <b>.</b> 0t	48,720	
	ミニトマト	1.1	20 <b>.</b> 0t	11,877	1.2	36 <b>.</b> 0t	27,000	
	ブロッコリー	12.0	66 <b>.</b> 0t	19,710	14.0	126 <b>.</b> 0t	48,300	
農	かぼちゃ	17.0	170 <b>.</b> 0t	48,093	18.0	234 <b>.</b> 0t	60,840	
産	にんにく	1.7	6 <b>.</b> 5t	2,762	2.0	16 <b>.</b> 0t	12,000	
恵	高菜	2.4	45 <b>.</b> 8t	1,945	3.0	132 <b>.</b> 0t	6,600	
芸	たまねぎ	4.2	110 <b>.</b> 5t	8,317	4.5	225 <b>.</b> 0t	13,500	
	豆類	0.7	3 <b>.</b> 0t	2,069	0.8	10 <b>.</b> 4t	10,400	
	花き	10.5	1,836千本	72,918	10.5	1,850千本	90,000	
	果樹	8.0	18 <b>.</b> 2t	5,882	8.0	18 <b>.</b> 0t	6,000	
	種 子	4.5	8 <b>.</b> 0t	12,963	4.5	8 <b>.</b> 0t	14,000	
	新規品目他						10,000	
	産 直 野 菜			68,176			70,000	
	葉 た ば こ			220,311	28.0	70 <b>.</b> 0t	140,000	
	農産園芸計			1,549,419			1,985,360	
	合 計			5,744,785			6,743,860	

令和 6 年度			令和8年度			令和10年度			令和12年度		
面積(ha)	数量	金額(千円)	面積 (ha)	数量	金額(千円)	面積 (ha)	数量	金額(千円)	面積 (ha)	数量	金額(千円)
	5,300頭	3,704,000		5,540頭	3,872,000		5,780頭	4,231,200		6,060頭	4,450,000
	250頭	75,000									
	200頭	120,000									
	80頭	88,000									
	500頭	550,000		600頭	660,000		700頭	770,000		850頭	935,000
	400頭	400,000		500頭	500,000		600頭	600,000		750頭	750,000
	280頭	84,000									
	7,010頭	5,021,000		7,450頭	5,399,000		7,890頭	5,968,200		8,470頭	6,502,000
900.0	90,000袋	720,000	950.0	95,000袋	760,000	1,000.0	100,000袋	800,000	1,200.0	120,000袋	1,000,000
200.0	30,000袋	30,000									
70.0	1,900袋	12,000									
14.5	435 <b>.</b> 0t	456,750	19.0	570 <b>.</b> 0t	598,500	24.0	720 <b>.</b> 0t	756,000	32.0	960 <b>.</b> 0t	1,000,000
4.0	168 <b>.</b> 0t	179,700	5.0	210 <b>.</b> 0t	224,700	5.5	230 <b>.</b> 0t	246,000	6.7	300 <b>.</b> 0t	300,000
4.0	100 <b>.</b> 0t	56,000	4.0	100 <b>.</b> 0t	56,000	5.0	125 <b>.</b> 0t	70,000	5.0	125 <b>.</b> 0t	70,000
1.5	45 <b>.</b> 0t	33,750	2.0	60 <b>.</b> 0t	45,000	3.0	90 <b>.</b> 0t	67,500	4.0	120 <b>.</b> 0t	90,000
16.0	144 <b>.</b> 0t	55,200	20.0	180 <b>.</b> 0t	69,000	25.0	225 <b>.</b> 0t	86,250	30.0	270.0t	103,500
20.0	260 <b>.</b> 0t	67,600	25.0	325 <b>.</b> 0t	84,500	28.0	364 <b>.</b> 0t	94,640	30.0	390 <b>.</b> 0t	101,400
2.5	20 <b>.</b> 0t	15,000	3.0	24 <b>.</b> 0t	18,000	4.0	32 <b>.</b> 0t	24,000	5.0	40 <b>.</b> 0t	30,000
4.0	176 <b>.</b> 0t	8,800	5.0	220 <b>.</b> 0t	11,000	7.0	308.0t	15,400	10.0	440 <b>.</b> 0t	23,000
5.0	250 <b>.</b> 0t	15,000	5.5	275 <b>.</b> 0t	16,500	6.0	300.0t	18,000	7.0	360.0t	22,000
1.0	13 <b>.</b> 0t	13,000	1.5	19 <b>.</b> 5t	19,500	1.8	23 <b>.</b> 4t	23,400	2.0	26 <b>.</b> 0t	26,000
10.5	1,890千本	94,500	11.0	1,980千本	99,000	11.5	2,070千本	103,500	12.0	2,500千本	130,000
4.0	40 <b>.</b> 0t	12,000	4.0	60 <b>.</b> 0t	19,800	4.5	100 <b>.</b> 0t	33,000	5.0	150 <b>.</b> 0t	50,000
5.0	10 <b>.</b> 0t	17,850	5.5	11 <b>.</b> 0t	19,635	6.0	12 <b>.</b> 0t	21,420	7.0	14 <b>.</b> 0t	25,000
		50,000			100,000			150,000			250,000
		70,000			70,000			70,000			150,000
28.0	70 <b>.</b> 0t	140,000	23.0	57 <b>.</b> 0t	115,000	23.0	57 <b>.</b> 0t	115,000	20,0	50 <b>.</b> 0t	100,000
		2,152,900			2,366,435			2,843,830			3,512,900
		7,068,150			7,767,135			8,704,310			10,014,900



# 「夢のある農業の実現に向けて」

JA 壱岐市営農振興計画 推進特別委員会 、 委員長 馬場 勝利氏 [JA壱岐市 理事] × 議長 本村 高一氏 [壱岐振興局 農林水産部長]

現在策定している壱岐地域の農業戦略(第9次営農振興計画)について、 新たに設置された2つの組織のトップお二人に、熱い思いを語っていただきました。 これからの農業振興に重要な事は何か?というお話の中の「キーワード」に注目してご紹介します。

するか、集落組織をどうするか、

その課題に取り組み地域の担い

入れ、農家への労働力の支援を

行い、農業者として定住に繋げ

ていく取り組みで、県として

も全力で支援したい。

1人づくり

馬場 まず「人づ くり | をどうして いくかが重要です。 経営者の育成、Ⅰ・ Uターン者をどう

手を確保することが大事。 本村 私も同じく「人づくり」 が大事だと考えています。今回 の計画でIAはマルチワーカー制 度の活用も検討されています。 壱岐で農業をやりたい人を雇い

馬場 I・Uターンし て農業を始める時に、

環境が整っていないと厳しい 部分がある。1つは、空き家対策。 田舎の空き家にはほぼ100%農地 があるので、うまく活用するた めにも行政との連携が必要です。

本村 空き家対策は市が中心と なり町づくり事業などを行って おり、県も支援している。整備 できていない所には中間管理機 構の事業をつかった基盤整備を 図るべきである。

また、儲かる農業のためにも新 規品目の露地野菜の導入も必要と 考えています。例えばニンニクな ど。現在、壱岐のオリジナルのニ ンニクを作るよう動いている。新 たな品目を入れる場合、基盤整備 と同時に水田の排水対策も進めて いかなければ難しい。

# 3 排水対策

馬場 私の所属する法人で高菜 とブロッコリーを始めたが、言わ れるように排水対策が課題となっ ています。良い作物を作るために も排水対策は一番大事です。

本村 良い米を作るにも排水対 策は重要です。地下水位制御 (フォアス) システムは、壱岐で も石田東地区で導入されており 収量が1.5倍になっています。導 入コストは反当40万ほどかかり ますが、国・県・市の助成制度 がありますので、来年からチー ムを組んで地域の皆さんに提案 していきたいと考えています。 馬場 やはり、基盤整備、排水 対策を講じなければ、次のス テージ (儲かる農業) には進

# 五 大きな地図

めないですね。

本村 壱岐には農業振興協議会 がある。技術者会で農地専門の 部会を作り、地域に入っていき たい。「大きな地図」を活用し、 農地拡大に向けた話し合いをJA の生産部会でもぜひやっていた だきたい。

馬場 とても良いアイデアだと思 います。今回の計画策定にあたり 本村部長に出会えたことに巡り合 いを感じる。今までにない形で各 組織と連携し取り組めていけると 確信しています。

# 5初期投資

本村 農業を始めるにあたり初 期投資や資金繰りが大変です。 農業を初めて5~7年は特に厳 しい。今回の計画にはアパート ハウスやトレーニングハウスに ついて盛り込まれていたが凄い 取り組みだと思う。壱岐の農家 の技術はとても高いので、資金 面が解決すれば、十分やってい ける農家が多くなると思います。 馬場 個人の取り組みや法人の 取り組みに対して、どういった形 で人づくり・環境づくりに繋げる 投資をしていくかが重要ですね。

# データ分析

本村 畜産では、今後「代謝プ ロファイル」という新たな指導法 が入ってきます。血液検査の結果 に基づいた栄養指導を行うもので す。活用すれば種がつかない牛で も2週間から1ヵ月でつくように なる。データ分析が重要で情報を 蓄積していこうという話。

アスパラはデータを有効に活用 し、JAが個人ごとのカルテを作り 収量を伸ばしている。

ぜひ、畜産でも活かしてほしい。

# \*プ 放牧モデル農業

本村 牛を増やすとなると現在 の農地面積では足りない。また、 一部放牧されている地区について も、放牧専用の牧草を植えて放牧 されている所はなかなかない。今 後、集約的な放牧のやり方をIA がモデルとなり示してほしい。

馬場 新しい事にチャレンジし ながら、飼い方を含め、色んな 方法を検討しながら多頭飼いで きるシステム構築を目指すべき ですね。

# 8 儲かる農業

馬場 以前テレビで農業に夢が あると語る若者がいた。そのよ うな気持ちを持つ若者がいると いうことはまだまだ農業の将来 はある=持続できると思う。意 欲的に取り組んでもらうために も儲かる農業を目指したい。や る以上は儲けがないと駄目です し、親が儲けその背中を見せて いかないと後継者はできない。

# 共販率の向上

本村 IAへの共販率は現在でも 高いものがあるが、もっと上げ



壱岐地域農業戦略推進会議 議長 本村 高一氏 [壱岐振興局 農林水産部長]

ていってほしい。集荷率を上げて ロットを多くすることが有利販売 に繋がる。島原地区などは着実な IA集荷、販売を続けジャガイモ の産地として確立している。

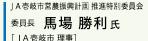
単価が安い時、個人売りされて いる方もいるかと思うが、踏みと どまりIAに出荷して欲しい。

IAが定時・定量・定質で出荷 を続ければ、産地を残そうと市 場は必ず動きます。農家の方々 にはそこを分かってほしいです。

## 今回の振興計画への 意気込み

本村 これまで壱岐では集落営 農などで農地の集積に懸命に取り 組んでこられた。これからは「農 地を守る農業」から「農地で暮ら せる、子供を育てる|農業の確立 が求められる。そのために何をす るのか。そのことが、この計画に 入ってくると考えています。

馬場 10年後に100億円達成で きれば後継者に悩むことはなく なる。「夢のある農業をどう実 現するか」これが、この計画の 最終目標です。







# 「持続可能で、魅力ある農業を目指して」

JA 壱岐市営農振興計画推進 特別委員会 / 壱岐地域農業戦略推進会議 副委員長 野元 勝博氏 [IA壱岐市 理事] | 副議長 谷口 実氏 [壱岐市 農林水産部長]

「第9次営農振興計画 | 対談シリーズ企画の第2弾として、今回は谷口副議長と野元副委員長に 今後の壱岐の農業振興についてお話を伺いました。

【聞き手】壱岐地域農業戦略 推進会議 副議長 计 重希氏[IA壱岐市 営農部長]



|A 壱岐市営農振興計画推進 特別委員会 副委員長 野元 勝博氏 [JA 壱岐市 理事]

#### 壱岐の農業振興について 「特に必要な事」は何でしょ うか?

谷□ 「持続可能な農業」に取り 組むべきだと考えます。壱岐市 では現在SDGsに取り組んでいま す。「よりよい社会を作るための 国際目標」として掲げられ、様々 な産業が取り組んでいますが、農 業も例外ではありません。

壱岐市では、自動潅水システ ムによるアスパラガスの生産性 の向上を始めとしたスマート農

業のモデル事業を進めていま すが、良質な土壌づくり や水稲の高温耐性品種へ の改良・転換など、すで に取り組んでいることがSDGsに 結びつきます。

難しく考えず「安心・安全な食料

の確保 | を目的とした農業の営みそ のものがSDGsに繋がっています。 野元 前回の対談の中でも「人づ

くり」というキーワードがありま したが、私も「人」だと思います。 人の確保が重要。これから10年 でどれだけ人が減るのかというこ とを心配していますし、農業でメ シを食える人を増やし、残してい くことが必要だと思います。

次に必要なのは「場所」です。 肥沃な土地、そうでない土地、水 があるか、日照があるかなど、立 地条件の良い場所が必要です。

また規模拡大には大型機械の使 用など「効率的な農業」ができる 場所が必要となり、「基盤の整備」 が重要となります。

人口減少がすすむ中で「人 | の確保が難しくなっていま



#### すが、どのように考えてい けば良いでしょうか?

谷□ 「マルチワーカー制度」は、 担い手育成を目的として地元の若 者やU・Iターン者を雇用する事業 として、今回の計画に入っています。 まずはこの制度をつかって経験 していただき、それから独り立ち し、農業移住してもらうのが良い と考えます。

野元 現在のコロナ禍、国内でも 多数の失業者が出ており、仕事を 求める人は多くいると思います が、それが壱岐の農業移住には繋 がっていません。

同じ離島でも、五島は人口が増 えており、壱岐で農業ができるPR が足りないのではないでしょうか。

福岡に近いという壱岐の利便性 を利用した取り組みも考える必要 があると思います。

#### 野元副委員長は以前、特別 委員会の中で「100頭牛舎」 について触れられていまし たが?

野元 色々考えています。最もコ ストをおさえる100頭の飼い方。 運動場つきの牛舎は、逆に考える と面積が増え建設コストが上がり ます。最初から100頭と決めずに、 20頭や30頭から始めて、その後 10頭ずつ増やしていける「継ぎ 足し型」の牛舎がいいのではない かと思っています。

補助金に縛られて思うように 農業が出来ないのは良くない ですね。牛舎の建築確認も法 改正で緩和されましたし、低 コスト牛舎への取り組みが すすんでいけば良いですが。

谷口 補助金も良し悪しですね。 自由度がないので。そういった意 味では融資を利用した方がいい所 もありますね。低コスト化や省力 化に取り組み、作業についても効 率化できるよう生産者の方が追求 して取り組んで行くことが大事だ と考えます。

野元副委員長が言われる 「継ぎ足し牛舎」はいい ですね。

近年、若手農家の規模拡 大が思うようにすすまな い現実がありますが。

野元 畜産は費用がかかります からね。運転資金として長期資 金が必要です。素牛が高いので そこを長期資金で補う。経営を 管理監督する人も必要です。

若手農家には、その道のプロに なってほしいし、その育て方が大 事だと思います。

谷口 後継者が育たない要因の一 つに初期投資がありますね。行政 では色んな事業を活用するために 様々な補助金メニューなどの調 査をしますが、最初の段階から 関係機関が一緒に相談して色ん な計画を立てた方がいいですね。 低コスト化も含めて。

#### 壱岐農業の可能性や今後期待 することについてお聞かせ ください。

谷口 「壱岐はこれだ! | という 新しい作物が生まれることを期待 しています。今ある高収益な作物 は残しながら、今後、産地化も含 めてPR出来る作物です。

大型圃場も高齢化を見越して活 用方法を検討する必要があります。 貸し借りできる仕組みづくりや、 耕作放棄地の利用、団地化など、 基盤整備と排水対策を含めた新た な作物に取り組む必要があります。 野元「まだまだ壱岐の農業は伸 びる | と思っています。しかし、



壱岐地域農業戦略推進会議 副議長谷口実氏 [壱岐市 農林水産部長]

よその農業をあまり知らないとい う所もあります。長崎県は産地と して見ると、近年ずっと伸びてい るし、場所によっては億の売上を 上げている所もあります。よその 産地も見て、壱岐でもこれができ るのではないかと勉強する事も 大事だと思います。

あとは若者に"壱岐農業の魅力" を伝え、I・Uターン者が壱岐で 就農してくれる事に期待したい。 地元に戻って来てぜひ継承してほ しいです。

#### 最後に一言お願いします。

谷□ 今回の振興計画について、 10年という期間で見られたこと はすごく意義がある。

10年先を見る事で、後世にどの ように引き継ぐかという事を考え ながら取り組んでほしい。それが "持続可能な農業"に繋がります。

野元 この新しい営農振興計画の 販売高100億円の目標は、農家の 所得向上が第一の目的です。所得 1000万円を目標とした"魅力あ る農業、の普及・拡大に取り組ん で頂きたい。



# 「20代が語り合う壱岐の農業」

畜産農家 山本 愛子さん × イチゴ農家 大久保 和真さん × 畜産農家 山口 博嵩さん

今回は若くして農業を頑張っておられる20代の皆さんに農業をテーマに語り合っていただきました。

JA 今回は「第9次営農振興計画」 対談シリーズ企画の第3弾という ことで皆さんに集まっていただき ました。よろしくお願いします~! 3人 よろしくお願いします!

JA ちなみに、皆さん面識はあり ますか?

大久保 私と愛子さんは同じ農業 大学校に通っていたので面識はあ ります。

山本 山口さんは牛市で見かけ た程度なので、しっかり話すの は今回が初めてですね。

> **山□** はいっ! 緊張してます!



JA 今日の対談は同世代同士と いうことで、リラックスしても らって大丈夫ですよ。さっそくで すが、皆さんの農業経営につい て教えて下さい。

山本 はい。我が家は親子で畜産 経営をしていて、父が肥育、私が 繁殖を行っています。

山口 私も畜産農家です。まだ父 がメインですが、一緒に40頭の 繁殖経営をしています。

大久保 私はイチゴ栽培が中心で す。母も私とは別のハウスでイチ ゴを栽培しています。

JA 皆さん、若くして既にバリバ リ農業経営されてますね!何か理想 とされてるところがあるんですか?

大久保 師匠である岡部政昭さん という壱岐の偉大な農家さんの所 で研修して、1年間で色んな事を 教えてもらいました。それを糧に、 いま反当3万パックの出荷達成を 目標にしています。

山口 私は、少数精鋭で40頭全 ての牛を良い血統で揃えたいとい う父の夢の実現に向けて、一緒に 頑張ってます。

JA 山本さんはどうですか?

山本 そうですね。今は別々の経 営ですが、将来的には父と一緒に やっていくことになります。父は 肥育牛の育成技術が高いので、私 が繁殖した子牛でそのレベルまで もっていけるようにしたいです。

JA なるほど、大久保さんは偉大 な師匠、そして山口さんと山本さ んはお父さんという理想像があっ ての今の活躍に繋がっているんで すね。農繁期、そして梅雨にも入っ て、大変な時期ではないですか?

山本 いや~、きついですね! (笑) いまはイタリアンの収穫時 期ですが、雨の前など作業に追わ れて大変です。

山口 (ウンウンと頷く)

JA 山口さん、すごくうなずい てますね (笑)

山口 そうなんです。愛子さんが おっしゃる通り、雨でイタリアン の収穫ができない時は、きついで す。あと、期待していた牛ほど、 エサを食べなくなったりして、何 でかな~と思う事もあります。

JA 農業が「きつい」という言 葉がでましたが、逆に「それでも 農業したい」と思う魅力みたいな ものって何かありますか?

大久保 そうですね。やりがいと言っ たら、どれだけ出荷できるか、いい 値段で売れるかという所ですかね。

山本 魅力、そうですね~。自分 のペースで仕事が出来ることか な。あと、負担も多いですが、子 牛が安全に産まれてくれた時は やっぱり嬉しいですね!

山□ 牛はいま金額が高いの もあり、牛市の時に自分の牛の 値段が上がっているときは「ウ オーッ!! |って興奮しますね(笑)。 一 同 爆笑

山口 どこかの会社で雇われて働 くのと違って、親子で仕事ができ ているので、意見も言い合えるし、 精神的にとても楽です。

大久保 お互いに意見を言い合え るのは良いよね。私は儲かりたい から、技術向上に向けて勉強して います。でも、一人だけ技術が向 上しても結果的には良くないよね。

#### JA 大久保さん、その意見素晴 らしいです!

大久保 ありがとうございます (笑) 米倉寛健さんという先輩に言 われた事があるのですが、自分だ け技術を良くしてもそれを教えな かったら後には続かない。しっか り共有することで後に繋がり、こ れから農業を始める人たちにとっ ても良い環境になると思います。

JA 農家同士で技術の向上を図っ ていくという話は、産地としての 拡大や、JA・生産部会が組織され ている目的にも繋がりますね。

大久保 あと、ちょっと話が変わ るんですが、新規就農してすぐに ハウスを建てるという方から、就 農から数年間の支援を厚くしてほ しいという話を聞きました。

山口 たしかに、就農してすぐ に大きい借金を負うのは怖い部 分がありますね。

大久保 そうなんです。例えば、 就農から何年かハウスを借りてやっ てみて、数年で得た資金でハウスを 建てれれば理想的だと思います。

JA 大久保さん、まさに今回策定 中の営農振興計画で、トレーニング

ハウスといった形で新規就農者へ の支援強化も盛り込む予定です! 一同 おおーっ!!

JA そういった支援体制の情報 発信も課題と思いますが、皆さん からも特に後輩の方へ伝えていき たいこととかありますか?

大久保 まずは農業のすばらしさを 実際に体験してもらいたいですね! 山本 いいですね、農業体験!学 校の授業に組み込んでほしいです。

大久保 収穫の楽しさ、農業の良 さを知ってもらった上で、支援制 度のことがわかれば、もっと伝 わっていくと思います。

山□ なるほど、農業体験か~。今 は父の農業を手伝っている部分が大 きいんですが、後輩たちにどのよう に声をかけたらいいでしょうか?

大久保 農業に興味ある子に、気 軽に手伝いにおいでと言ってみる のも一つの手だと思うよ。

山本 無理と思うなら言うだろう し、興味があるなら就農するかも。 大久保 機械が好きな子もいるか もしれないよね。私はトラクター が好きで、乗りたいと思う事が けっこうあるよ (笑)

山本 先日、専門学校の女の子が 研修に来て、機械に乗りたいと言っ てきて乗せたら「楽しい♥」って喜 んでくれました。やっぱり「体験」っ て大事だなと思いました。

山□ そっか~、気軽に声かけて みようかな。

山本 うんうん。重いものとか女 性ができないことがあっても、楽 しい要素は体験した人が自分で見 つけてくれるから、やり方が大事 だと思います。

JA なるほど。JAも青年部・女 性部を中心とした農業体験や食農 教育、そして中学校や高校を訪ね て農業講話などをしてきました。 実際に農業を体験してもらう取り 組みも拡大する必要がありますね。 ちなみに、みなさんIA壱岐市の YouTubeはご存じですか?

大久保 JAもYouTubeやってる んですね!良いですね~。

山口 博嵩さん [畜産農家]

JA 幅広い方に農業の魅力を発 信したいと思っています、皆さん も出演含めてぜひご協力お願い します!では、10カ年の営農振 興計画にちなんで、最後に皆さん の10年後の展望や夢を聞かせて 下さい。

大久保 10年後を見据えて、い ま母のハウスに環境制御・自動 潅水システムが入っているので、 私のハウスにも導入して、これ からの技術向上に繋げたいです。 3万パックの目標達成を目指し て頑張ります!

山本 近い目標としては、安定し た子牛の生産「一年一産」で回 していきたいです。10年後には、 父と合併して一貫経営で肥育の成 績もずっと上物でいけるようにし ていくのが最終的な目標です。

山口 一言ですみませんが、経費 を引いた純利益1千万円が目標 です!!

一同 オーッ!!

JA 皆さん経営者としての視点 をもって高い目標を持っておら れますね。まさに10年後の壱岐 の農業を背負って立つ方々と

思います。JAも引き続 き若い農家の皆さんの 支援にも力を入れて いきます!貴重なお 話をありがとうござ いました。

大久保 和真さん 「イチゴ農家





# 「トップに聞く!これからの壱岐の農業」

組合員の皆さん、この新しい営農振興計画のために企画した対談シリーズも、いよいよ最終回となり ました。最後は、壱岐市長、壱岐振興局長、JA組合長によるトップ対談で、締めくくっていただきます。 農業振興に対する熱い想いをぜひご覧ください。

川崎組合長 本日は「これから の壱岐の農業」をテーマに企画 した対談を快くお引き受けいた だき誠にありがとうございます。 第9次営農振興計画の策定にあ たりましては、県や市など関係 機関で組織する「壱岐地域農業 戦略推進会議」の設置にご賛同 いただき、官民一体となった取 り組みが実現していることに、 改めまして御礼を申し上げます。

新しい営農振興計画では、10 年後の販売高100億円を目標に掲 げています。「めざそう! 100億 で離島農業日本一へ」をスローガ ンに、この計画が広く地域に浸透 し、島を上げて盛り上げていきた いと考えています。それでは、白 川市長、黒崎振興局長、よろしく お願いいたします。

#### これからの農業振興に特に 必要なことをお聞かせ下さい

白川市長 まず、今回の第9次営 農振興計画で、共販の販売高100 億を目指していることは、素晴ら しい目標だと思います。

壱岐は第1次産業の島ですか ら、農業と漁業は育てていかな ければいけません。これは間違 いないことですし、 農業に期待 する部分は非常に大きいです。

しかし、農業の担い手を確保し ていくのは簡単ではありません。 例えば、初期投資にかかる費用や その投資の回収に時間がかかるこ となどの課題があります。また人 手不足も深刻です。そこで、農業 機械購入の投資を抑えるためと、 作業の効率化を図るためにも農業 機械銀行の活躍も期待していると ころです。様々な課題に対して、 行政としていかに支援できるか、 とても重要だと考えています。

黒崎局長 白川市長も「素晴らし い計画だ」と言われましたが、私 も今のタイミングでJA壱岐市が 戦略を掲げるということは「時機 を得たもの」になっていると期待 しています。

計画の中で特に感心しているの は「真の担い手の育成」というと ころです。ここに相当の想いを入 れて作られていると思いました。

今までの農業振興計画は、数値 目標だけを掲げることが多く、そ の目標までの「道筋」が見えにく いものが多くある中で、そこに目 配りをしていると感じました。

県としてやらなければならない ことが山ほどあります。ぜひ一緒に やらせていただきたいと思います。 白川市長 IA壱岐市の営農振興 計画の「強み」だと思っている所 があります。長崎県は地域ごとに 振興計画を立てます。壱岐市の場 合、JA (現場) で営農振興計画を 立て、その計画を壱岐市は全面的 にバックアップします。ですから、 「IAの振興計画」は「壱岐市の振 興計画」となります。「Aと行政 が常に協議し農業振興に取り組ん でいるというのは、他の地域では 見られないと思っています。ここ が今後の壱岐の農業振興において 最も強い部分だと思っています。

一方で、逆に難しいところもあ ります。壱岐は深江田原のように 広い水田地域もありますが、全体 の約半分は小さい圃場であり、土 地利用型の農業を主体としてきま した。近年ではアスパラ、いちご、 メロンなどの施設園芸品が普及 し、高単価・高収益の実績を上げ ています。このように壱岐は南国 の品目以外なんでもできる栽培し やすい環境だからこそ「何を育て るか」という品目の選択が重要に なってくるということです。

黒崎局長 逆に考えると環境に恵 まれ過ぎてるのではないでしょう か。何でもできるし、できたも のは美味しい。しかし品質は良 いのですが、ロットが小さいの で、市場で勝負するには「ブラ ンド化」が重要になってきます。 ブランド化については、まだま だ道半ばであり、壱岐のポテン シャルが埋もれていると思いま す。この計画で戦略品目を絞って 壱岐ブランドの品目を確立できれ ば、農家の所得が増え、息子さん や娘さんが親の背中を見て農業を 継いでくれます。そうして売上が ついてくると息子さんにはお嫁さ んがくる。そうすれば子供が増え ます。実際、長崎県内でも農業の 力で過疎化の現状からV字回復し たという事例もあります。壱岐で も必ずできると思います。離島農 業日本一でそれを実現できるので はとワクワクしています。

川崎組合長 ありがとうござい ます。ご両名の今のご指摘、ご意 見の通りです。

市長からは初期投資について、 局長からは担い手育成について、 島を支える産業を育てていくため にも、地域の過疎化の問題を解決 していくためにも、市・県として 支援していくという力強い言葉を いただきました。

現在、販売高の約7割を畜産で 占めていますが、高齢化や後継 者不足により減少傾向にありま す。畜産の振興なしに、100億の

壱岐市農業協同組合

代表理事組合長 川崎 裕司氏

目標は達成できませ ん。家畜市場の上場 頭数を維持していか なければ、購買者は 来なくなります。現 状の4,052頭(令和 2年度実績) を5,000 頭、6,000頭と増や していく必要があり

ます。そこで、新たな畜産生産基 盤の維持対策を検討しています。 内容は、IA直営牛舎を各地区に 準備して、地域の人を雇用し、飼 養管理を委託していく事業展開で す。そうすれば1.000頭、2.000 頭と増えていくと思っています。

頭数の推移 8.000 6.000 2.000 ━ 繁殖飼養頭数 ━ 子牛上場頭数

また先ほどからご指摘の「初期投 資や担い手育成 | の課題解決にも つながります。

壱岐は繁殖地ですから、繁殖が 増えれば肥育農家も増やすことが できます。今のままでは、掲げた 目標まで増頭していくことは難し いと考えています。畜産農家にも ご理解いただきながら、新たな取 り組みにも挑戦していきたいと 思っています。

課題はたくさんありますけれど も、ここに農家とIAと関係機関 が一体となって、叡智を結集し、 やる気をもってやっていきたいと いう想いで、100億という目標を 掲げました。

どうか今後ともご指導・ご支援 をよろしくお願いします。

お聞きしたいことがあります。今 回、組合長は「ニンニク」を推進 品目にあげられました。その想い を聞かせて下さい。

川崎組合長 壱岐のにんにく栽培 の歴史は古く、「壱州早生」とい う風味が良い品種を多くの方が栽

> 培されていましたが、鱗 片が多く扱いにくいこと もあり、今では栽培して いません。輸入規制緩和 もあり、産地は縮小され、 現在は別の品種を作付し ていますが、以前のにん にく産地を復活したい想 いです。露地品目では所 得が高く、栽培期間の管 理作業が少ないことも魅

力です。現在、産地拡大を目指し て機械化体系を進めています。

「にんにく」は「九州の壱岐」が 有名となる日が来ることを夢見て います。

白川市長 先ほどから話に出てき ていたように、やはり壱岐は、作 日の選定によって色んな特産品が できるという希望があります。組 合長の熱い想いが伝わってきまし た。是非とも「壱州にんにく」の 復活と産地化に向け、頑張ってい ただきたいと思います。

#### 壱岐の農業の可能性や期待 などをお聞かせ下さい

白川市長 壱岐の特徴の一つは、 やはり離島ということです。これ までは、輸送コストが高く、同じ **白川市長** ここで一つ、組合長に 土俵で戦えませんでした。しかし、





「有人国境離島法」の成立で、輸 送コストに対する補助が実現し、 戦える土台ができたので、うまく 活用していただきたい。

それと、壱岐の特徴として、長 崎県下でも最も早く、集落営農組 織の組織化が進んでいます。壱岐 の方々は地域での結束がとても強 いと思います。後継者不足などの 課題も、集落営農組織等が受委託 をしていくなどの取り組みにも期 待しています。そうしているうち に、局長がおっしゃるように親の 背中や集落の姿を見て、後継者の 確保が進んでいくのではないか と思います。

川崎組合長 いま、市や県の協力を 得て進めている「特定地域づくり 事業(マルチワーカー)|は、担い手・ 後継者不足を解決していく起爆剤 として大いに期待しています。本 来は製造業やサービス業などに活 用されていく制度ですが、これを 農業の現場に活かしていこうとい う取り組みです。I・Uターン者 の就農支援として定着すれば、日 本初の事例になるかもしれません。

是非、成功させたいと考えてい ます。

黒﨑局長 これは成功すれば、離 島を飛び越えて、日本全国「右へ ならえ」となる可能性が十分にあ ると思います。

先ほど私が「時機を得た計画」 と申し上げた背景の一つに、令和 2年の国勢調査の結果があります。

離島の平均ではマイ

ナス8.9%です。壱

岐は離島の中では留

まっている方ですが、

やはり本土と比べる

今回、壱岐の生産年齢人口(15

歳~64歳)である所得を稼げる

年代の人たちが、1万2.126人と

なり、総人口の半分を割ってしま

いました。これが何を意味するか

というと、農業だけでなく、何を

やるにしても土地はあるけど、や

る人がいない。ずっと人手不足と

いうことです。技術や農地はある

そこにこのタイミングで、IA

壱岐市が「特定地域づくり事業(マ

ルチワーカー) | で組合を作り、島

農業でやっていけるというモデ ルを示していけば、壱岐市の「強 み」にそのままなるのです。

る必要があります。

川崎組合長 農家だけじゃないで すが、特に農家の親御さんたち は、やはりどうにかして子供たち が戻って来ないかという気持ちが ものすごくあると思います。し かし、仕事や収入などの面で戻っ て来いとはなかなか言えないと いう部分もあります。

この制度を確立して成功させ れば、生活を維持しながら技術 の習得をして、就農できます。 私も、この制度を活用した後継 者対策は、この振興計画に合わ せたこのタイミングしかないと 思っています。

黒﨑局長 さらに計画には、マルチ ワーカーとして様々な農業技術を 習得する中で、それを支援する仕 組みとして、トレーニングハウス やアパートハウスを検討されてい ると聞いています。まさに、しっか りとした「道筋」を

> 示されています。 是非、行政 の方でも、今 ある制度の中 で活用できな いもの、問題

壱岐振興局

けど、作る人がいない。

昂長 黒﨑 勇氏

内外の若者を中心 に農家に派遣して、 安定的に生活でき る収入を確保させ ながら、一方で、技 術の習得をさせる というプログラム を準備して農業振

興していくことを計画されていま す。これはたぶん今しかできない。 逆にいうと、この機を逃してはい けないと思います。

どのみち全国が壱岐と同じよう に人口減少になっていきます。早 く課題に接している分だけ早く 取り組みをして、人材の奪い合 いをする前にしっかりと対策す があるものについては、「ここは、 このようにできないか!このよう にしてくれ!」などと協議しなが ら、県・市・JAがスクラムを組 んで解決していきたいと考えてい ます。農業で、離島で、豊かな生 活が確立されるんだというところ を見せていきたいですね。

川崎組合長 ありがとうございま

す。是非これは、スクラムを組ん でいきたい。そして、今おっしゃ るように「ここは、このようにで きないか」というところを行政と 一緒になってやっていけば通じて いくと思います。

川崎組合長 今日は、色んな話を 聞かせていただきました。この 「100億の目標」は、県下に

広がっていまして、県の会 合でも話題となり驚いてい るところです。

白川市長 私が「100億とい う目標が素晴らしい | と思う のは、やはり人は物を言うと 責任が生じ、プレッシャー もかかります。しかしプレッ シャーがないと目的は達成で

きません。私はいつも「有言実行」 だと言っています。言った以上は やるんだという気持ちが大事です。 川崎組合長 県の農林部長からも 応援いただいています。

黒﨑局長 当然、県でも応援して います。県庁内のメールでも「壱 岐を応援しよう! という動きが出 ていてうれしかったです。

白川市長 今、局長がおっしゃる ように、トップランナーとして認 めてもらうと、国の政策にも反映 されやすくなります。ですから、「制 度は決まっている。だからここを こうして下さい。」と物申す。その くらいなければいけないですね。

さて、「農業の可能性」の話に なりますが、壱岐市では、SDGs を推進しています。

農業を発展させることは、SDGs そのものです。

農業は、食料を供給するという 役割において、「目標2. 飢餓をゼ ロに|「目標3. すべての人に健康 と福祉を | に欠かせない産業です。

また、農業はそれ自体で自然 環境を保持するという役割があ ります。これは「目標13. 気候 変動に具体的な対策を | 「目標 15. 陸の豊かさを守ろう に関 わってきます。

さらに農業には雇用を支える 役割もあるため「目標8.働き がいも経済成長も」「目標9.産 業と技術革新の基盤をつくろうし と関わってきます。

そして、壱岐市においても取り 組みを進めている「スマート農業」 も、SDGsの考えに繋がっています。 このように、農業は、命を守り、 環境を守り、雇用を守るという



SDGs シンポジウム開催(令和2年11月)

大きな役割を担っているのです。 川崎組合長 最初は、SDGsとい う言葉にピンとこず、島民の皆さ んも同じ気持ちだったかと思いま す。しかし、近年ニュースなどで クローズアップされ、少しずつ世 間に浸透していくことによって、 農業が果たしている役割を改めて 自覚するようになりました。市長 のおっしゃる通り、大きな役割を 果たしているということです。

感じていることは、市長もお話し された集落営農法人の組織化が進 んでいることです。今30団体ある かと思うのですが、それをこの小 さい島でできていることに驚いて います。他の地域では法人化が進 んでいません。これからの担い手 育成や労働力支援の対策として、 この集落営農法人とマルチワー

カーを両輪で進めていくことがで きます。集落営農法人の不足分を 「マルチワーカー」に補ってもらう。 周年雇用できるようにしていくと、 元々課題であった低い土地の利用 率を高めることで、農家の所得の 上積みにもつながります。集落営 農法人の取り組みについては、県 としても願っていることです。

先日の第2回壱岐地域農業戦 略推進会議では、「大きな地図」 を広げて協議を行われたと聞い ています。農業振興には、排水 対策や農地集積など農地の基盤 整備を進めていくことも重要な 課題です。各集落で地域の皆さ んが集まって話し合い、基盤整 備を進めていくことができれば と思っています。

川崎組合長 本日は、貴重なお話 をいただき、ありがとうございま した。改めて、壱岐地域の農業戦 略を、JAだけではなく、関係機 関と一体となって作り上げ、全力 で農業振興ができることを、確信 いたしました。

10年後の高い目標に向かって、 この対談が契機となり、壱岐市 全体で取り組んでいくことをお 黒崎局長 壱岐の農業の可能性を 約束し、対談の結びとさせてい ただきます。

> この新しい営農振興10ヵ年計画 は、「若者が活き活きと豊かな生活 を営むことができる魅力ある農業 の実現 | を基本理念としています。

組合員の皆さま、そしてこれか ら農業を始めようとしている皆さ ま、どうか共にこの計画を成功さ せましょう。



第2回壱岐地域農業戦略推進会議の様子





# 壱岐農業のあゆみ

昭和39年度3月 壱岐郡農業協同組合発足 昭和40年度5月 合併後初の牛セリ市開催 (勝本・芦辺・郷ノ浦の三市場) 8月 壱岐郡農協婦人部結成総会(郷ノ浦中央公民館) 9月 第1回壱岐郡和牛共進会 (那賀) 3月 壱岐郡農協青年部結成総会 各生産部結成 (柑橘・肥育・育成・養豚) 昭和41年度5月 「新農協だより」創刊 第1回通常総会開催(武中体育館) 昭和42年度4月 人工授精業務開始 6月 初山支所事務所新築 10月 郷ノ浦家畜市場完成(柳田) 昭和43年度10月 みかん選果場完成 昭和44年度11月 県下初の高等登録雌牛4頭誕生 昭和45年度1月 壱岐米、韓国へ輸出(対外援助) 昭和46年度7月 本所事務所完成 11月 初の臨時総代会開催 三島地区、渡良支所から武生水支所へ移管 昭和47年度4月 芦辺出張所開設 10月 深江ライスセンター建設 2月 野菜共同集荷所建設(みかん選果場構) 壱岐家畜市場開設(市場島内3ヶ所の家畜市場統合) 昭和48年度4月 農業振興3ヵ年計画設定 6月 箱崎支所事務所完成 7月 石田支所事務所完成 9月 籾穀焼却施設、ライスセンター横に併設 11月 子牛市販売高1億円突破 3月 販売高10億円、購買品供給高10億円突破 昭和49年度8月 勝本支所事務所完成 2月 電算機導入稼働開始 3月 人工授精業務本所集約、無線車による業務開始 昭和50年度4月 武水生支所完成 5月 合併10周年記念祝賀会開催(本所) 3月 沼津支所完成 昭和51年度2月 北部ライスセンター完成 改良基礎牛組合設立総会 3月 志原支所及び購買店舗完成 家畜市場繁殖畜舎完成 昭和52年度4月 壱岐牛7頭全国共進会へ出場 1月 深江農業倉庫完成 3月 渡良支所及び物品倉庫完成 昭和53年度4月 子牛市販売高2億円突破 1月 第1回全和登「和牛改良組合コンクール」で渡良和牛改良組合が最優秀賞 昭和54年度5月 北部農業倉庫完成 (一室に低温設備) 昭和55年度4月 第1次営農振興3ヵ年計画設定

昭和56年度8月	土壤分析室完成
3月	壱岐郡和牛育種組合創設
昭和57年度4月	電算オンラインシステム稼働
9月	農産加工部会発足
昭和58年度3月	子牛販売高10億円突破
	営農振興1・1・1運動開始
昭和59年度6月	和牛肥育部会発足
8月	他用途利用米集荷開始
2月	合併20周年記念式典開催、記念誌「あゆみ」発刊
3月	米16億円、葉たばこ19億円の販売高を記録
昭和60年度4月	第2次営農振興3ヵ年計画設定
5月	農産加工品等宅配便開始
11月	第1回農協まつり開催
昭和61年度1月	第1回園芸振興大会開催
2月	田河支所完成
昭和62年度4月	離島初の凍結卵移殖受胎確認
5月	農機具リース事業開始
6月	第1回メロン・牛肉まつり開催
8月	台風12号襲来。施設、農作物に壊滅的被害
昭和63年度4月	第3次営農振興5ヵ年計画設定
3月	子牛販売高20億円突破
	メロン販売高 1 億円突破
平成元年度	販売高49億円達成
平成2年度5月	勝本支所鎌田集会場完成
10月	第1回うまい米づくり大会開催
	新家畜市場・農産物集出荷施設完成
平成3年度3月	資材センター完成
平成4年度4月	呼称「農協」から「JA」へ変更
6月	いちご販売高2億円突破
3月	肥育センター完成
平成5年度8月	肉用牛改良会議発足
	記録的な冷夏・長雨により農作物に大被害
10月	いきいき子牛づくり推進大会開催
1月	第4次営農振興計画5ヵ年計画設定
平成6年度6月	いちご振興大会開催
7月	メロン産地拡大推進大会開催
9月	受精卵移殖研究会発足
11月	合併30周年記念式典開催
12月	JAミートショップ壱岐店オープン
平成7年度5月	特別栽培米・特別表示米研究会発足
3月	いき壱岐米生産流通大会開催
平成8年度4月	支所再編成 12支所から5支所8出張所体制へ
11月	壱岐産米専用肥料開発
平成9年度7月	多目的農産物集出荷施設完成
	竜巻発生 農作物、施設、家屋に被害
11月	壱岐郡肉用牛振興大会開催
平成10年度4月	新深江ライスセンター完成「出荷設備・調製、精米設備」を完備

5月 合併15周年記念式典開催 8月 農機具センター完成

北部ライスセンター籾摺機増設



花き部会設立総会、振興大会開催

平成11年度6月 集中豪雨により水稲、農作物、施設、家屋流失、冠水

1月 16年ぶりの大雪でハウスなど倒壊

2月 家畜市場誘導レール設置

3月 ふれあい市部会直販施設完成

平成12年度4月 第5次営農振興計画開始

9月 いちご販売高2億8千万円達成

11月 アスパラ部会エコファーマー認定

平成13年度4月 営農センター・国分資材センター完成

子牛共同育成施設 (キャトルセンター) 完成

12月 BSE風評被害対策「安心・安全 壱岐牛キャンペーン葉書 5 千枚投函運動 |

1月 農作業支援センター設立

平成14年度4月 農産物集出荷場に廃ビニール圧縮減容機を設置

9月 民間検査機関(「A壱岐郡)による米の検査開始

10月 農畜産物直販施設「アグリプラザ四季菜館」構内にオープン

2月 壱岐牛7,000頭増決起大会開催

平成15年度4月 農地保有合理化事業、新規就農者支援事業開始

7月 第1回壱岐牛・糸島牛合同ミートフェアー開催

9月 竜巻と豪雨で掛け干し米冠水、圃場冠水家屋倒壊の被害

11月 「A壱岐郡産直センター「アグリプラザ四季菜館福岡店」福岡市西区にオープン アスパラ部会第30回施設園芸共進会で生産局長賞、全農会長賞、技術奨励賞受賞

2月 IA 壱岐郡雌牛肥育センター完成

3月 壱岐市誕生

平成16年度6月 第1回離島地域肉用牛振興連絡協議会開催

7月 壱岐・対馬バイオマス循環システム発足

8月 壱岐郡農業協同組合「JA壱岐郡」より壱岐市農業協同組合「JA壱岐市」へ名称変更

10月 農業生産法人「有限会社アグリランドいき」設立(IA出資型法人)

11月 合併40周年記念式典開催

3月 花き販売額1億円達成

資源リサイクル畜産環境施設(堆肥センター)完成

農業研修施設建設(共同管理施設ハウス13棟)

平成17年度10月 新たな経営所得安定対策等大綱決定

12月 芦辺湯岳生産組合が特定農業団体に認定(九州初)

2月 大原・志原西生産組合が全国麦作共励会で全国農業協同組合中央会長賞受賞 畜産販売高35億円達成。年間平均価格50万円超える

3月 第4回壱岐市肉用牛振興大会開催

「繁殖牛7,000頭・総販売額35億円達成記念大会」

壱岐市農協花き部会 第15回花の国づくり共励会花き技術・経営コンクール

にて農林水産省生産局長賞受賞

平成18年度7月 第2キャトル・繁殖センター完成

9月 台風13号襲来。農作物、施設、家屋に被害

平成19年度4月 子牛共同哺育育成事業開始

12月 アスパラガスの反収県内1位に

平成20年度8月 壱岐農業経営危機突破緊急決起大会開催

2月 繁殖支援センター (CBS)完成

平成21年度4月 支所統廃合

6月 「島の駅壱番館」オープン

平成22年度7月 宮崎での口蹄疫発生を受け6月子牛市を7月延期開催

2月 IA壱岐市農業振興大会開催

平成23年度4月 第7次営農振興計画開始

戸別所得補償制度開始

10月 緊急增頭対策事業開始

11月 農産加工部会結成30周年記念祝賀会開催

3月 アスパラガス部会日本農業賞大賞受賞

つや姫生産部会発足

平成24年度10月 長崎全共開催。壱岐からの出品牛すべて優等を獲得

12月 米の反収が県内1位に

3月 壱州ゆべしが長崎四季畑に認証

平成25年度4月 機構改革により営農指導員を支所に配置

10月 第5回壱岐市肉用牛振興大会開催

12月 イチゴ新品種「ゆめのか」販売開始

アスパラガス販売高3億円突破

3月 共同乾燥調製施設完成

平成26年度4月 壱番館、四季菜館と経営統合 「壱岐牛」地域団体商標登録

12月 アスパラガス反収8年連続県下1位

2月 子牛平均価格が61万5千円で最高記録を更新

3月 合併50周年記念式典開催

平成27年度8月 全国つや姫フォーラム開催

12月 子牛平均価格が71万円で最高記録を更新

2月 壱岐農業振興大会開催(第8次営農振興計画)

平成28年度4月 緊急増頭対策「JA壱岐市チャレンジ7000事業」開始

5月 壱岐地域集落営農法人経営支援協議会設立

11月 農産物集出荷場再編竣工

3月 畜産販売高50億円達成 JA販売高70億円達成

平成29年度4月 壱岐市担い手サポートセンター開所

子牛平均価格が90万4千円で最高を更新(去勢平均価格1,004千円を記録)

5月 肉用牛販売高50億円達成祝賀会

9月 第11回全国和牛能力共進会宮城大会

10月 四季菜館リニューアルオープン

平成30年度1月 認定農業者との対話運動

2月 「平茂晴号」顕彰碑除幕式・振興大会

3月 2018子牛市場ランキング(日本農業新聞)で全国第5位

令和元年度4月 [A東京アグリパーク「壱岐まるごとマルシェ」開催

8月 畜産経営継承支援事業開始

12月 アスパラガス反収 13年連続県下1位

2月 新型コロナウィルス感染症拡大

支所統廃合 2支所体制へ

令和2年度9月 台風9号、10号襲来。施設農作物に被害

11月 第1回営農振興計画推進特別委員会

2月 第1回壱岐地域農業戦略推進会議

令和3年度8月 壱岐市農業支援事業協同組合設立

「鼻腔粘膜ワクチン・TSV-3」の上場牛全頭投与を開始

11月 第9次営農振興計画書発行

1月 壱岐農業振興大会開催





# JA壱岐市営農振興10ヵ年計画 - 第 9 次営農振興計画 -

2021年(令和3年)11月 発行

発行者 壱岐市農業協同組合

〒811-5132 長崎県壱岐市郷ノ浦町東触560番地 電話(代表) 0920-47-1331 ホームページ https://www.ja-iki.jp

編 集 JA壱岐市営農振興計画推進特別委員会 壱岐地域農業戦略推進会議

印刷所 🥌 🕸 三省堂印刷的



#### 目次

ご挨拶・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	[6] 新規参入人材の積極的確保に向けて・・・・・・19 [7] 農業版マルチワーカーの活用による 農業従事者の拡大に向けて・・・・・21					
ステップアッププログラム 03	【8】集落営農の拡大・100組織に向けて					
Ⅱ部門別振興方針	2.農産園芸部門					
1.畜産部門	~品目別具体策と取り組み計画~					
~畜産振興に向けた取り組み~ ・・・・・・・・・ 05	水稲27 ミニトマト…35 高菜 …43 果樹51					
2.農産園芸部門	アスパラガス・29 ブロッコリー・37 たまねぎ・45 ばれいしょ・53					
~畜産振興に向けた取り組み~	いちご・・・・31 かぼちゃ・・・39 豆類・・・・47 枝豆・・・・・55					
【1】水田農業経営の効率化に向けて 09	メロン・・・・33 にんにく・・・41 花き・・・・49					
【2】土地利用型作物の振興へ向けた取り組み概要 … 11	3.産直部門					
【3】JA主導型園芸団地の育成に向けて 13	~振興方針と取り組み計画~ ・・・・・・・・・・・ 55					
【4】信頼される産地育成へ向けた販売戦略 15	Ⅲ販売計画 · · · · · · · · · 59					
【5】スマート農業技術の導入・普及による	Ⅳ特別企画 対談シリーズ vol.1 ~ vol.4 · · · · · · · · · · · · · 61					
生産性の高い産地の育成に向けて 17	V 壱岐農業のあゆみ ・・・・・・ 71					